

小山市経済動向実態調査

(2024 年度第 1 回報告書)

2024 年 9 月

小山市産業観光部商業観光課委託

白鷗大学ビジネス開発研究所

小山市経済動向実態調査

(2024 年度第 1 回報告書)

目次

要旨	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象・調査内容	3
2.1. 調査対象	3
2.2. 調査内容	6
3. 調査結果	7
3.1. 全般的な小山市の景気	7
3.2. 小山市における業界の景気	13
3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問	29
4. まとめ	34
(参考資料)	36
i. 小山市景気動向アンケート調査票(2024 年度第 1 回)	36
ii. 小山市景気動向アンケート調査(2024 年度第 1 回)の回答一覧	42
iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)	68

小山市経済動向実態調査プロジェクトメンバー

白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	西谷 勢至子
白鷗大学経営学部准教授・ビジネス開発研究所運営委員	高木 孝紀
白鷗大学経営学部講師・ビジネス開発研究所運営委員	八尾 政行
白鷗大学総合研究所担当職員	櫻庭 律子
(協力)白鷗大学経営学部教授・ビジネス開発研究所所長	小笠原 伸

小山市経済動向実態調査

(2024 年度第 1 回報告書)

2024 年 9 月

白鷗大学ビジネス開発研究所

白鷗大学ビジネス開発研究所では、小山市産業観光部商業観光課からの委託を受けて小山市の消費面を中心とした経済動向を把握するため、2002(平成 14)年度以降、小山市経済動向実態調査を実施している。2024(令和 6)年度小山市経済動向実態調査では、小山市景気動向アンケート調査(6 月と 12 月)とヒアリング調査(2 月)を実施予定である。本報告書は 2024 年度小山市景気動向アンケート調査(第 1 回)の調査結果をまとめた 2024 年度小山市経済動向実態調査の第 1 回報告書である。

要旨

2024 年 6 月から 7 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(2024 年度第 1 回)」の結果をみると、2024 年上半期(1~6 月期)の小山市の全般的な景況感は、前回調査(2023 年下半期(7~12 月期)から「やや良い」、「やや悪い」、「悪い」の割合が上昇し、「どちらともいえない」の割合が下落した。景気動向指数(DI)でみると 47.2%と前回からやや低下傾向にあり、2 期連続で 50%を下回った。その理由としては、「お客様や取引先の様子」、「小山市の人出の状況」、「物価の動き」といったものが上位に挙げられていた。人流が増加しているという意見がある一方で、労働力に余剰が出ているとの懸念の声も聞かれた。

小山市の景気見通しに関して、前回の調査と比べ、「変わらない」、「悪くなる」の割合が上昇し、「やや良くなる」の割合が下落した。DI でみると 45.8%と前回から下落し、DI が 50%を下回ったのは 2023 年上半期(1~6 月期)の見通し以来である。その理由としては、物価高への憂慮が見られた。

業界の小山市での売上げについての回答についてみると、前回の調査と比べ、「やや増加した」、「変わらない」の割合が上昇し、「増加した」、「やや減少した」の割合が下落した。DI でみると 54.9%と前回からやや低下したものの、3 期連続で 50%を上回った。家計向け取引の場合、「販売量の動き」、「来客数の動き」、「お客様の様子」が主な理由として挙げられており、企業向け取引の場合、「受注量や販売量の動き」、「取引先の様子」、「受注価格や販売価格」が主な理由として挙げられていた。

売上見通しについては、「変わらない」、「やや減少する」の割合が上昇し、「増加する」、「やや増加する」の割合が下落した。DI でみると 47.2%と前回から下落し、2022 年下半期(7~12 月期)の見通し以来 50%を下回った。その理由として、経済や政治の先行きの不透明感や、売り上げ回復の動きが鈍いことの声が聞かれた。

販売価格見通しについて、「上昇する」の割合が上昇し、「変わらない」、「やや低下する」の割合が下落した。DI でみると 63.2%と、前回から上昇し、7 期連続で 50%を超え、調査開始以来最も高い水準となった。この結果はこの数年継続している全国的な物価上昇の傾向が反映されたものであると考えられる。

雇用見通しについては、「不足する」、「横ばい」の割合が上昇し、「やや不足する」、「やや過剰となる」の割合が下落した。DI でみると、66.0%と、前回から上昇し、7 期連続で 50%を上回り、調査開始以来最も高い水準となった。人手不足は慢性化の傾向にあり、人材確保は今後の重要な経営課題となるだろう。

資金繰りの状況に関して、「改善した」の割合が上昇し、「やや悪化した」の割合が下落した。DI でみると、57.1%と、前回から上昇し、2021 年下半期(7～12 月期)以来 50%を上回り、調査開始以来最も高い水準となった。その理由は、「売上高の変化」、「人件費の変化」、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」が上位に挙げられていた。また、前回調査から「人件費の変化」の割合が大きく上昇し、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」が大きく下落している点にも注意を払うべきだろう。

賃金等の状況について、前回調査と比べ、「ベースアップを実施」の割合が大きく上昇し、「定期給与・ボーナス等の変更なし」の割合が大きく下落した。回答理由を見ると、物価上昇への対応のためにベースアップを実施するという回答が見られた一方で、ベースアップを実施したいものの、会社の状況が悪く実施できないとの回答もあった。また、年間休日を増やしたことが採用面で効果があったとの回答もあった。

今回のアンケート調査では、いわゆる「2024 年問題」と昨今の外国為替レートに関する質問を追加で行った。

働き方改革関連法案により、2024 年 4 月 1 日から、自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限規制が適用された。この規制が適用されることによる諸問題は「2024 年問題」と呼ばれている。荷主企業として、「2024 年問題」の影響をどのように受けるのかという質問については、「配送コストが高騰する」、「特に影響はない」、「集荷時間など配送スケジュールを調整する」が上位の回答だった。運送事業者として「2024 年問題」の影響をどのように受けるのかという質問については、「特に影響はない」、「営業収入が減少する」、「ドライバー等の賃金が減少する」、「荷主等との交渉をおこなわなくてはならない」が上位の回答だった。「2024 年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題をたずねたところ、配送コストの上昇やドライバーの管理といった問題が指摘され、それに関する対応策が述べられていた。

昨今の円安ドル高がプラスに働くか、マイナスに働くかをたずねたところ、「マイナス」との回答が最も高い割合であり、次に「プラス・マイナス両方」との回答が続いた。望ましい為替レートの水準についての質問では、「わからない」、「1ドル 120 円以上～130 円未満」、「1ドル 110 円以上～120 円未満」が上位の回答だった。最後に、昨今の為替レートの動きについての意見を聞いたところ、輸入原材料費の高騰など円安の悪影響を指摘する意見が多く挙げられていた。

1. 調査の目的

小山市景気動向アンケート調査は、小山市の景気動向を把握するため、小山市の流通業、サービス業、製造業などの企業、店舗に対して小山市の景況、各業界の業況等をアンケート形式で調査したものである。

2. 調査対象・調査内容

2.1. 調査対象

2024 年 6 月から 7 月にかけて、小山市内の企業 120 社程度を対象に小山市の景気動向に関するアンケート調査を行い、36 社から回答を得た。回収率は 30%である。

図表 2-1 回答企業の業種別構成

業種	社数(社)	
	今回	前回
流通業(小売業)	5	5
製造業	12	9
金融・保険業	3	3
運輸業	3	3
ホテル・旅館業	1	1
飲食業	0	0
通信・放送業	1	1
不動産・住宅業	4	4
サービス業	3	5
印刷業	0	0
その他・不明	4	2
合計	36	33

(注) 前回は 2023 年 12 月調査、業種を複数選択した企業、選択肢外の業種を回答した企業はその他・不明に分類した。

前回調査(2024 年 12 月)に比べ

- ・ 増加した業種: 製造業、その他・不明
- ・ 減少した業種: サービス業

図表 2-2 回答企業の従業者数

従業員数(人)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
1～4	3	8.3	21.2	17.1
5～9	2	5.6	18.2	17.1
10～19	5	13.9	6.1	17.1
20～29	5	13.9	9.1	8.6
30～49	5	13.9	6.1	5.7
50～99	7	19.4	15.2	20.0
100 以上	9	25.0	21.2	14.3
不明	0	0.0	3.0	0.0
合計	36	100.0	100.1	99.9

(注) 前は 2023 年 12 月調査、前々回は 2023 年 6 月調査。
個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

前回調査(2023 年 12 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した従業者規模: 10～19 人、20～29 人、30～49 人、50～99 人、100 以上
- ・ 構成比が 2%ポイント以上減少した従業者規模: 1～4 人、5～9 人、不明

図表 2-3 回答企業の売上高

売上高(円)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
3,000 万未満	2	5.6	18.2	14.3
3,000 万～1 億未満	4	11.1	15.2	11.4
1 億～5 億未満	12	33.3	18.2	34.3
5 億～10 億未満	5	13.9	12.1	11.4
10 億以上	12	33.3	30.3	25.7
不明・該当なし	1	2.8	6.1	2.9
合計	36	100.0	100.1	100.0

(注) 前は 2023 年 12 月調査、前々回は 2023 年 6 月調査。個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

前回調査(2023 年 12 月)に比べ

- ・ 構成比が 2%ポイント以上上昇した年間売上高規模: 1 億～5 億未満、10 億以上
- ・ 構成比が 2%ポイント以上低下した年間売上高規模: 3,000 万未満、3,000 万～1 億未満、不明・該当なし

図表 2-4 回答企業における売上割合

小山市内の 売上割合(%)	企業数(社)	構成比(%)		
		今回	前回	前々回
80～100	5	13.9	24.2	22.9
60～79	11	30.6	27.3	22.9
40～59	1	2.8	9.1	14.3
20～39	6	16.7	12.1	14.3
0～19	11	30.6	18.2	20.0
不明・該当なし	2	5.6	9.1	5.7
合計	36	100.2	100.0	100.1

(注) 前回は 2023 年 12 月調査、前々回は 2023 年 6 月調査。
個々の構成比の四捨五入の関係で合計しても 100%にならないことがある。

小山市内の売上割合が 60%以上の企業数の合計は 16 社(44.5%)となった(前回調査: 51.5%)。

2.2. 調査内容

今回の調査内容は、質問 1 から質問 17 までは、従来の調査と同様に、景況感に関わる項目である。そのうち、質問 1 から質問 5 までは、全般的な小山市の景気の現状および先行きに関してたずね、質問 6 から質問 17 までは、回答企業自身についての現状および先行きに関してたずねている。働き方改革関連法案により、2024 年 4 月 1 日から、自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限規制が適用された。この規制が適用されることによる諸問題は「2024 年問題」と呼ばれている。質問 18～20 は「2024 年問題」に関する質問事項である。外国為替レートは、2021 年以降円安傾向で推移している。質問 21～23 は外国為替レートに関する質問事項である。

質問 1：小山市の景気の現状(水準)

質問 2：質問 1 の回答理由

質問 3：質問 2 の具体的な回答

質問 4：2024 年下半年(7～12 月期)の小山市の景気見通し

質問 5：質問 4 の回答理由

質問 6：業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

質問 7：質問 6 の回答理由(家計消費向け取引)

質問 8：質問 6 の回答理由(企業消費向け取引)

質問 9：質問 7、8 の具体的な回答

質問 10：業界の小山市での売上見通し

質問 11：質問 10 の回答理由

質問 12：2024 年下半年(7～12 月期)の販売価格見通し

質問 13：2024 年下半年(7～12 月期)の雇用見通し

質問 14：2024 年上半年(1～6 月期)の資金繰りの状況

質問 15：質問 14 の回答理由

質問 16：2024 年度の賃金等の状況

質問 17：質問 16 の回答理由

質問 18：「2024 年問題」の影響(荷主企業)

質問 19：「2024 年問題」の影響(運送事業者)

質問 20：「2024 年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題

質問 20：昨今の円安ドル高はプラスかマイナスか

質問 21：望ましい為替レート水準

質問 22：為替レートの動きについての意見

3. 調査結果

3.1. 全般的な小山市の景気

質問 1 から質問 5 までは、全般的な小山市の景気についてたずねた。以下その結果を述べる。

3.1.1. 小山市の景気の現状(水準)(質問 1～3)

質問 1 では全般的な小山市の景気の現状(水準)をたずねた。2024 年上半期(1～6 月期)は「良い」2.8%、「やや良い」25.0%、「どちらともいえない」38.9%、「やや悪い」25.0%、「悪い」8.3%となった。前回と比べ「やや良い」、「やや悪い」、「悪い」の割合が上昇し、「どちらともいえない」の割合が下落した。前回調査(2023 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや良い」(+3.8)、「やや悪い」(+3.8)、「悪い」(+5.3)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「どちらともいえない」(-15.6)

となった。DI¹でみると 47.2%と前回(48.5%)からやや低下傾向にあり、2 期連続で 50%を下回った。(図表 3-1, 3-2)。

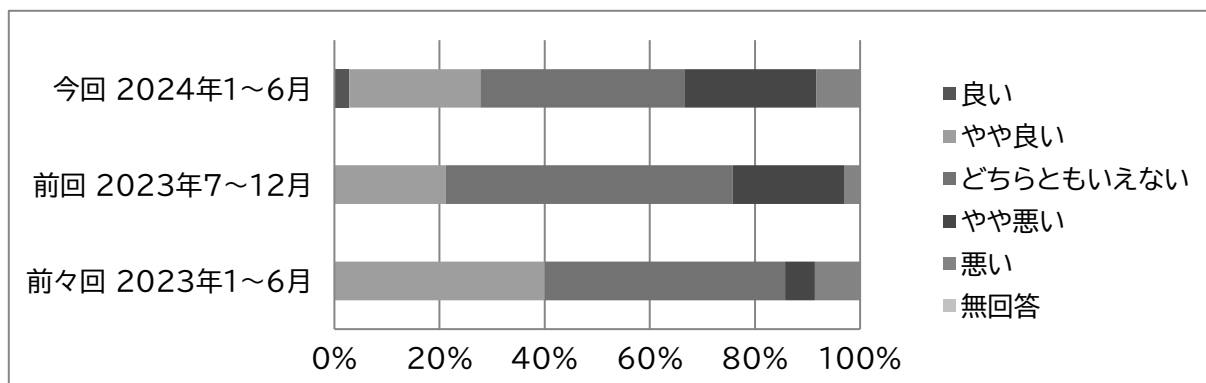
質問 1 の回答理由(質問 2)についてみると、「お客様や取引先の様子」(38.9%)、「小山市の人出の状況」(16.7%)、「物価の動き」(14.0%)が上位三位までの理由だった(図表 3-3)。

質問 2-1 の具体的な回答内容(質問 2-2)では、観光を含めた人流が増加しているという意見がある一方で、派遣会社の営業の状況から、労働力に余剰が出ているとの懸念の声も聞かれた。

¹ DI (Diffusion Index)とは、景気動向指数の一つであり、回答(%)の「良い」を 1、「やや良い」を 0.75、「どちらともいえない」を 0.5、「やや悪い」を 0.25、「悪い」を 0 として、構成比(無回答を除く)で加重平均したものである。DI が 50%を超えると景気回復、50%を下回ると景気悪化を示唆している。

質問 1: 小山市の景気の現状(水準)

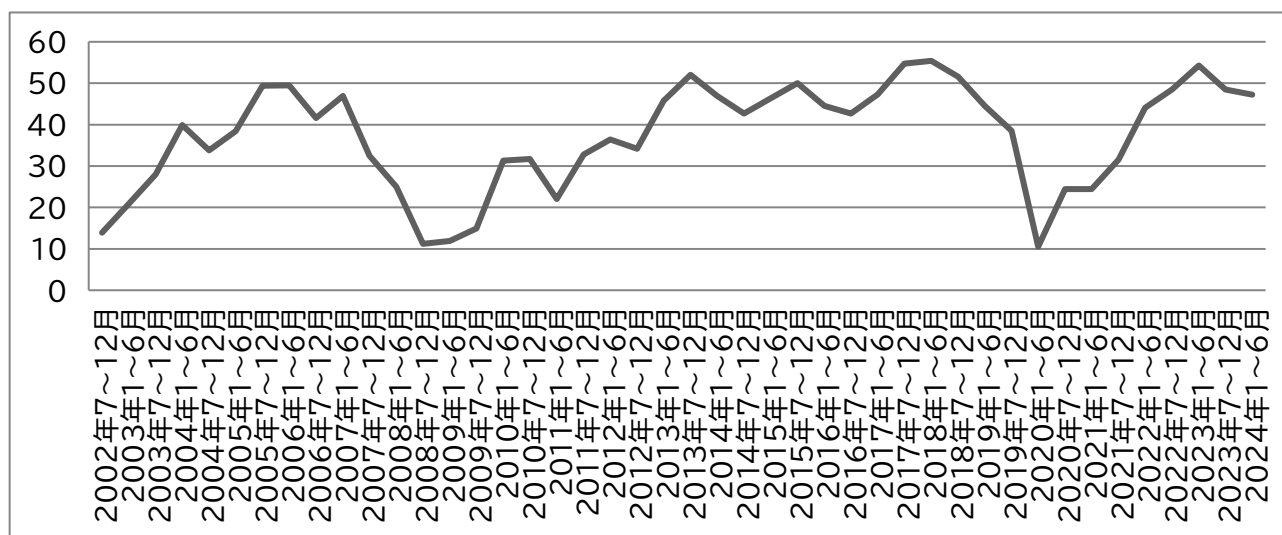
図表 3-1 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

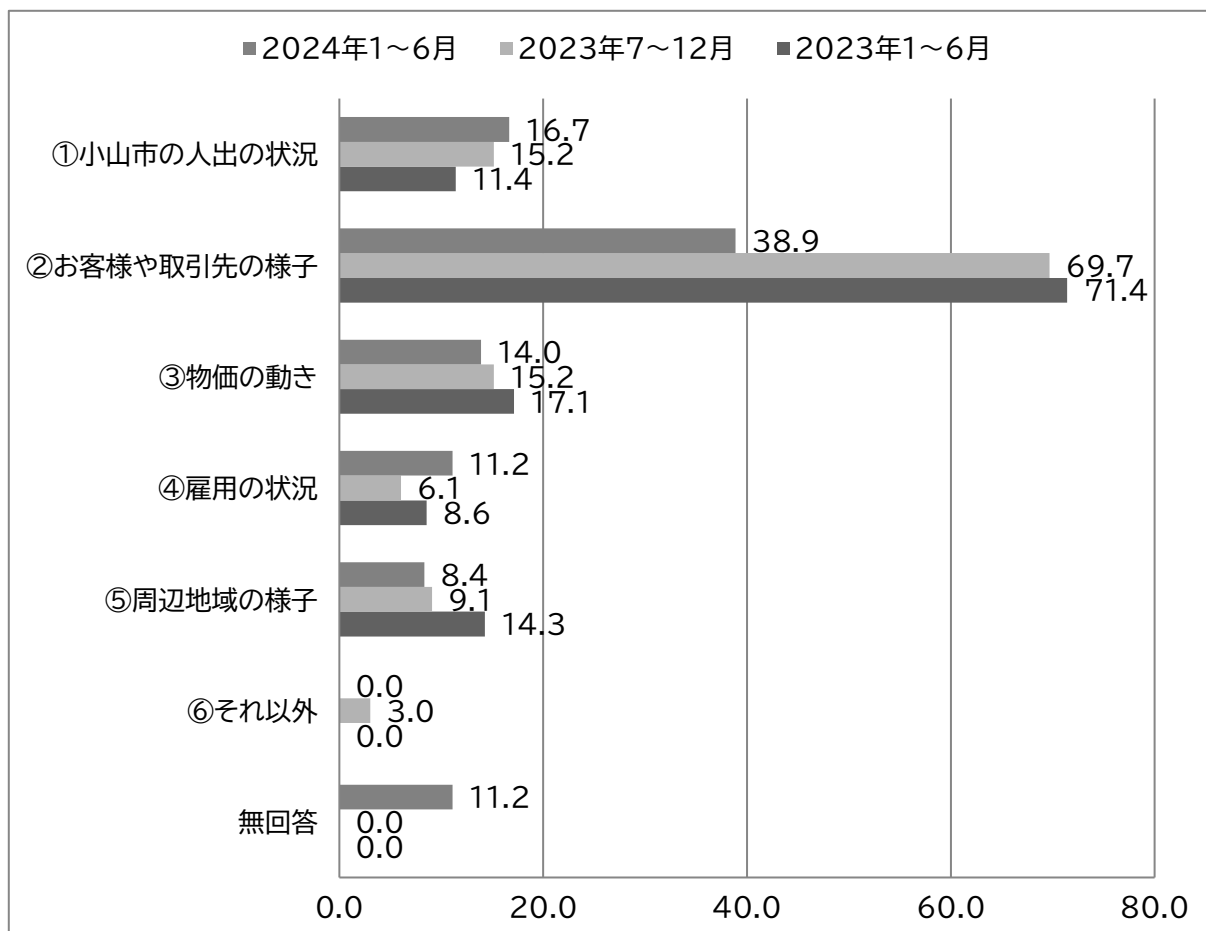
	良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回 2024 年 1～6 月	2.8	25.0	38.9	25.0	8.3	0.0	47.2
前回 2023 年 7～12 月	0.0	21.2	54.5	21.2	3.0	0.0	48.5
前々回 2023 年 1～6 月	0.0	40.0	45.7	5.7	8.6	0.0	54.3

図表 3-2 DI の推移(%)



質問 2: 質問 1 の回答理由

図表 3-3 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)(%)



(%)

質問 2	①小山市の人出の状況	②お客様や取引先の様子	③物価の動き	④雇用の状況	⑤周辺地域の様子	⑥それ以外	⑦無回答
質問 1							
良い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8
やや良い	8.3	8.3	2.8	0.0	2.8	0.0	2.8
どちらともいえない	5.6	13.9	5.6	5.6	2.8	0.0	5.6
やや悪い	2.8	13.9	5.6	2.8	0.0	0.0	0.0
悪い	0.0	2.8	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	16.7	38.9	14.0	11.2	8.4	0.0	11.2

(注) 36 社に対する比率。複数回答は無回答に分類した。

質問 3: 質問 2 の具体的な回答内容

- ◆ やや良い
 - ・ 「観光(インバウンド含)や出張等の動き」(①小山市の人出の状況)
 - ・ 「完全にコロナ禍は脱して、良いものは残し、生産性が高くなっている。」(②お客様や取引先の様子)
- ◆ どちらともいえない
 - ・ 「人出が増え、購買意欲の上昇を感じられるが、商品の価格に対し単に安い高いと見るより、費用対効果を吟味する傾向が上昇しているように見受けられる。」(①小山市の人出の状況)
 - ・ 「物流的に大幅な増減がない」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「エネルギーや食料品など多くの生活必需品の価格がさらに上昇したことから、実質賃金は低下し、足元の暮らしを直撃している。」(③物価の動き)
- ◆ やや悪い:
 - ・ 「店舗(路面店・ショッピング共に)の客数低減」(①小山市の人出の状況)
 - ・ 「運輸業をとりまく状況が 2024 年問題によって変化。荷物の出方が全体的に落ちている傾向がみうけられる。」(②お客様や取引先の様子)
 - ・ 「派遣会社の営業が活発な為。労働力に余剰が出ていると見られる。」(④雇用の状況)
- ◆ 悪い:
 - ・ 「派遣社員の受入れ先が少ない。」(④雇用の状況)
 - ・ 「同業他社や異業種の店舗展開の様子を見て(閉店が目立つ)」(⑤周辺地域の様子)など

3.1.2. 2024 年下半期(7～12 月期) の小山市の景気見通し(質問 4、5)

質問 4 の小山市の景気見通しに関して、2024 年下半期(7～12 月期)は 2024 年上半期(1～6 月期)と比べ、「良くなる」0.0%、「やや良くなる」11.1%、「変わらない」66.7%、「やや悪くなる」16.7%、「悪くなる」5.6%となった(図表 3-4, 3-5)。前回と比べ「変わらない」、「悪くなる」の割合が上昇し、「やや良くなる」の割合は下落した。前回調査(2023 年 12 月)と比べ、

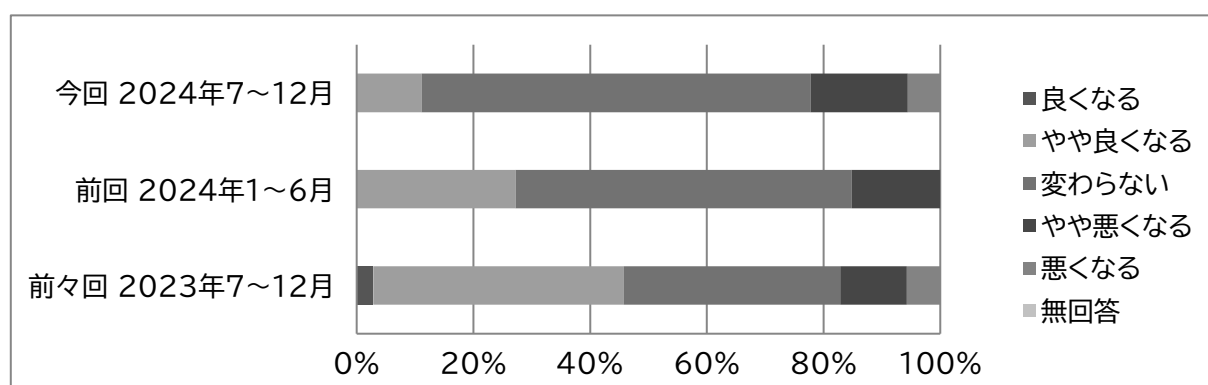
- ・ 3%ポイント以上増加: 「変わらない」(+9.1)、「悪くなる」(+5.6)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや良くなる」(-16.2)

となった。DI でみると 45.8%と前回(53.8%)から下落した。DI が 50%を下回ったのは 2023 年上半期(1～6 月期)の見通し以来である。

質問 4 の回答理由(質問 5)では、物価高への憂慮が見られた。

質問 4: 2024 年下半期(7～12 月期) の小山市の景気見通し

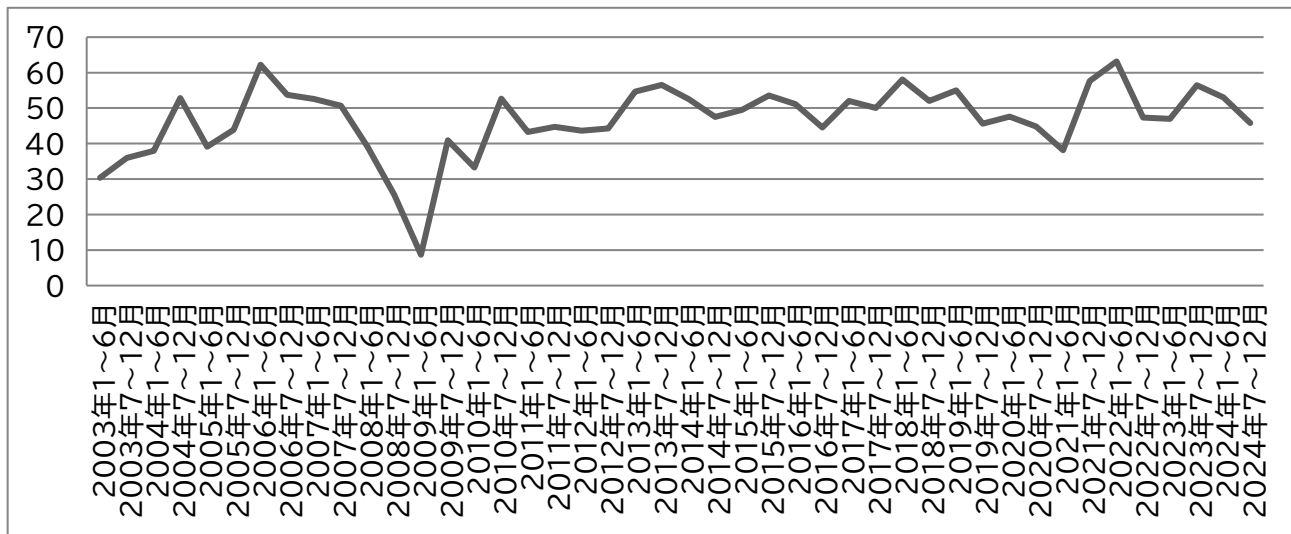
図表 3-4 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回 2024 年 7～12 月	0.0	11.1	66.7	16.7	5.6	0.0	45.8
前回 2024 年 1～6 月	0.0	27.3	57.6	15.2	0.0	0.0	53.0
前々回 2023 年 7～12 月	2.9	42.9	37.1	11.4	5.7	0.0	56.4

図表 3-5 DI の推移(%)



質問 5: 質問 4 の回答理由

- ◆ やや良くなる
 - ・ 「人の動きや賃金の上昇により消費が現状より上向く。ただし、大きな災害や現在以上の円安及び地政学的リスクは注意が必要。」
- ◆ 変わらない
 - ・ 「国として、定額減税制度もあるが、それほど効果は出ないと思われる。」
 - ・ 「円安が続くと予想し、物価高により実質賃金の上昇が抑えられると考えます。」
 - ・ 「単価の引き上げに時間を要している傾向がみられることから、大きな変化はないものと予想している。」
- ◆ やや悪くなる
 - ・ 「物価高による値上げ」
- ◆ 悪くなる
 - ・ 「物価高騰」
 - など

3.2. 小山市における業界の景気

質問 6 から質問 17 までは、小山市における回答企業・店舗の業界景気動向をたずねた。以下その結果を述べる。

3.2.1. 業界の小山市での売上げ(質問 6～8)

業界の小山市での売上げについて、2024 上半期(1～6 月期)は「増加した」2.8%、「やや増加した」30.6%、「変わらない」52.8%、「やや減少した」11.1%、「減少した」2.8%となった(図表 3-6, 3-7)。前回と比べ「やや増加した」、「変わらない」の割合が上昇し、「増加した」、「やや減少した」の割合が下落した。前回調査(2023 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「やや増加した」(+3.3)、「変わらない」(+10.4)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「増加した」(-9.3)、「やや減少した」(-4.1)

となった。DI でみると 54.9%と前回(57.6%)からやや低下したものの、3 期連続で 50%を上回った。

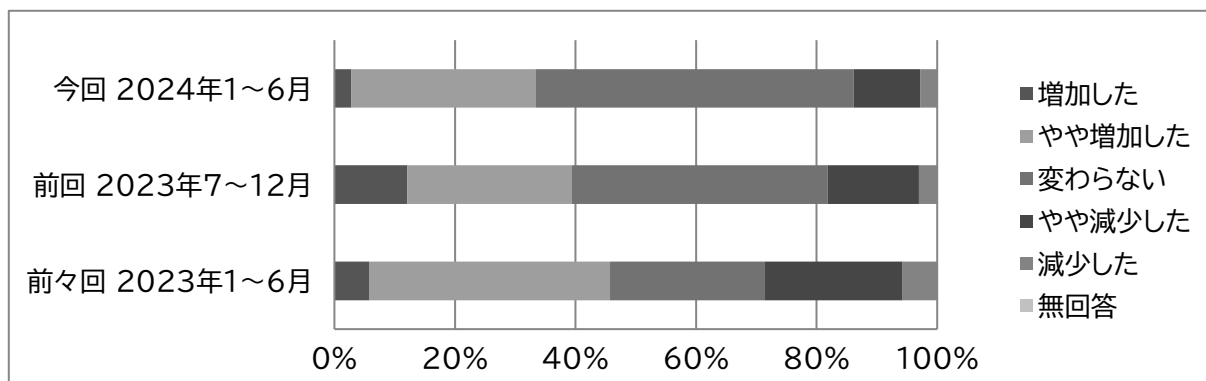
質問 6 の回答の理由(質問 7、8)についてみると、家計向け取引の場合、「家計消費向け取引(B to C)を行っていない」、「無回答」を除いて、「販売量の動き」(16.7%)、「来客数の動き」(13.9%)、「お客様の様子」(11.1%)が上位三位までの理由だった(図表 3-8)。

企業向け取引の場合、「企業向け取引(B to B)を行っていない」、「無回答」を除いて、「受注量や販売量の動き」(41.7%)、「取引先の様子」(19.4%)、「受注価格や販売価格の動き」(16.7%)が上位三位までの理由だった(図表 3-9)。

質問 7、8 の具体的な回答内容(質問 9)ではコロナ禍を経て人流が回復してきたとの意見がある一方で、設備投資や受注量の減少傾向にあるとの意見もあった。また、2024 年問題による運送コストの上昇への言及もあった。

質問 6: 業界の小山市での売上げ(売上金額の増減)

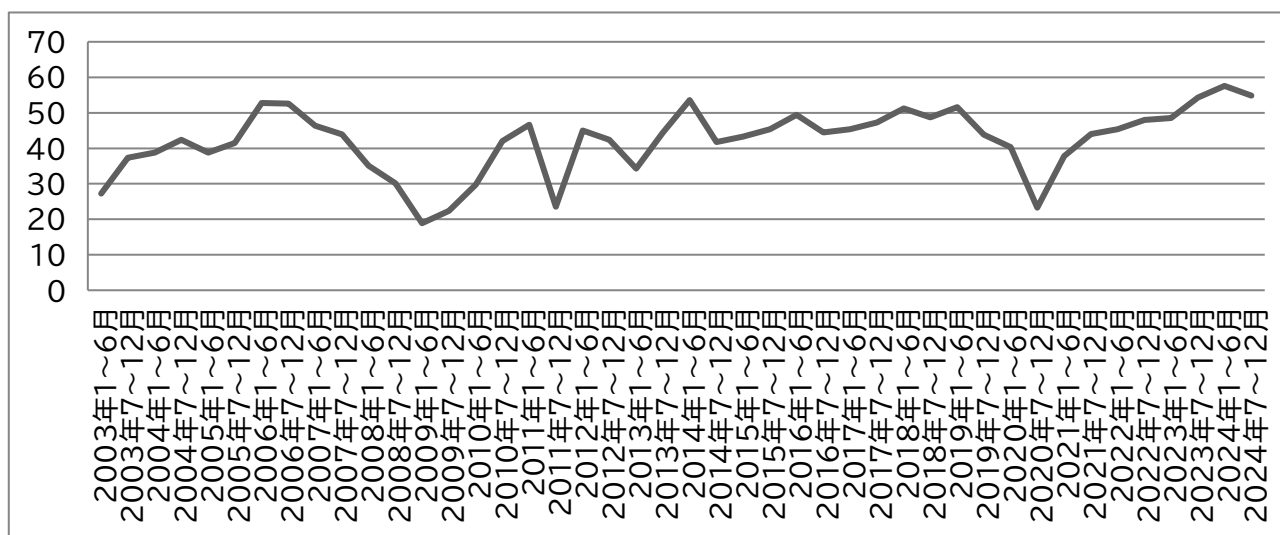
図表 3-6 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

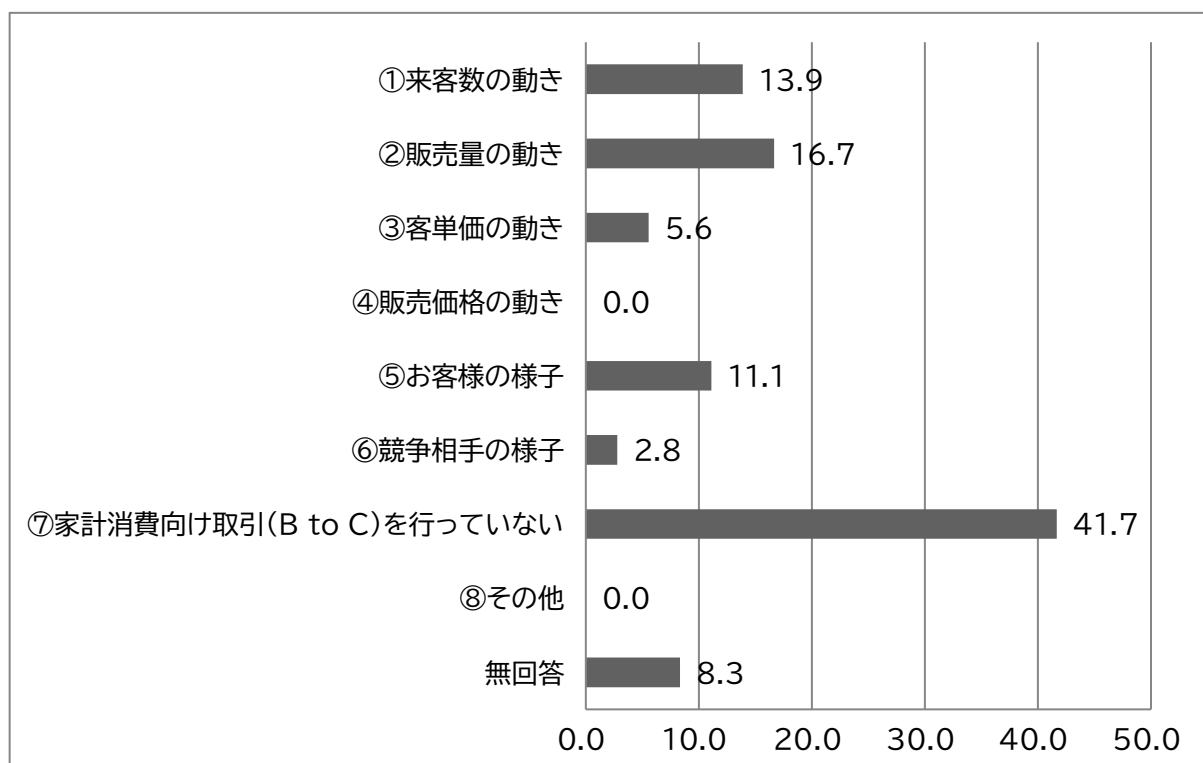
	増加した	やや増加した	変わらない	やや減少した	減少した	無回答	DI
今回 2024 年 1～6 月	2.8	30.6	52.8	11.1	2.8	0.0	54.9
前回 2023 年 7～12 月	12.1	27.3	42.4	15.2	3.0	0.0	57.6
前々回 2023 年 1～6 月	5.7	40.0	25.7	22.9	5.7	0.0	54.3

図表 3-7 DI の推移(%)



質問 7: 質問 6 の回答理由(家計消費向け取引)

図表 3-8 質問 6 と質問 7(家計消費向け取引)のクロス集計(%)



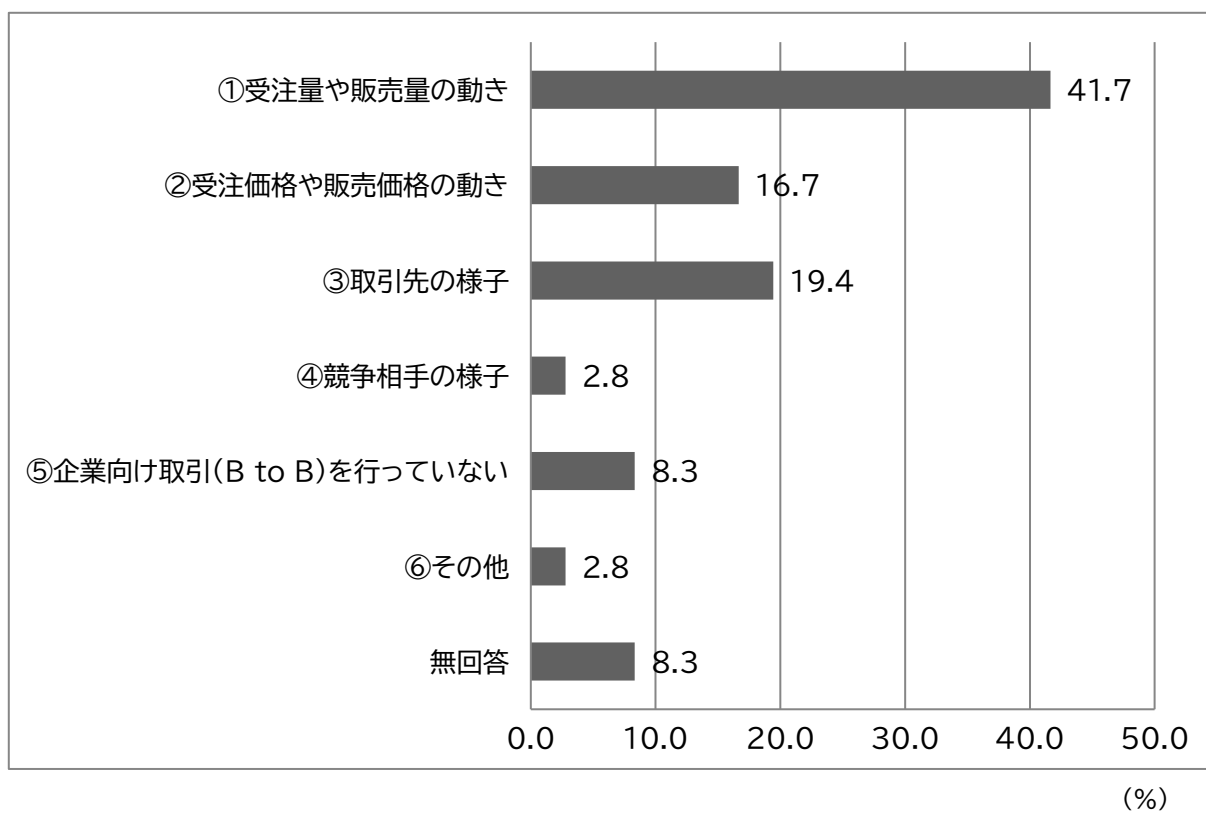
(%)

質問 7	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答
質問 6									
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0
やや増加した	5.6	0.0	2.8	0.0	5.6	2.8	5.6	0.0	8.3
変わらない	8.3	16.7	0.0	0.0	5.6	0.0	22.2	0.0	0.0
やや減少した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0
減少した	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	13.9	16.7	5.6	0.0	11.1	2.8	41.7	0.0	8.3

(注) 表の%は 36 社に対する比率。複数回答は無回答に分類した。

質問 8: 質問 6 の回答理由(企業消費向け取引)

図表 3-9 質問 6 と質問 8(企業消費向け取引)のクロス集計(%)



質問 8	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答
質問 6							
増加した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8
やや増加した	8.3	11.1	5.6	0.0	2.8	0.0	2.8
変わらない	22.2	5.6	13.9	2.8	2.8	2.8	2.8
やや減少した	8.3	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0
減少した	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	41.7	16.7	19.4	2.8	8.3	2.8	8.3

(注) 表の%は 36 社に対する比率。

質問 9: 具体的な回答

◆ やや増加した

- ・ 「人流回復によるもの(外出増)」(不動産・住宅業)
- ・ 「様々な相談は増加傾向にあります。」(金融・保険業)
- ・ 「販売価格を維持しながら、コストを削減できた。」(製造業)

◆ 変わらない

- ・ 「来客数と先行予約の状況から横ばい状況となっている。」(ホテル・旅館業)
- ・ 「海外を相手にしている客先が多いので、しばらくは動きはなさそう。」(運輸業)
- ・ 「業況が改善している様子があまり感じられない。設備投資の動きも低迷している。」(金融・保険業)

◆ やや減少した

- ・ 「受注量が減少傾向にある。」(製造業)
- ・ 「・受注量増加傾向にあったが、生産量が減少していたため。
・2024 年問題による。輸送費コスト増のため。取引先からの売上に繋がる引き合いが低迷している。」(製造業)
など

3.2.2. 業界の小山市での売上見通し(質問 10、11)

業界の小山市での売上見通しに関して、2024 年下半期(7～12 月期)は 2024 年上半期(1～6 月期)と比べ、「増加する」0.0%、「やや増加する」13.9%、「変わらない」63.9%、「やや減少する」19.4%、「減少する」2.8%となった(図表 3-10, 3-11)。前回と比べ「変わらない」、「やや減少する」の割合が上昇し、「増加する」、「やや増加する」の割合が下落した。前回調査(2023 年 12 月)と比べ、

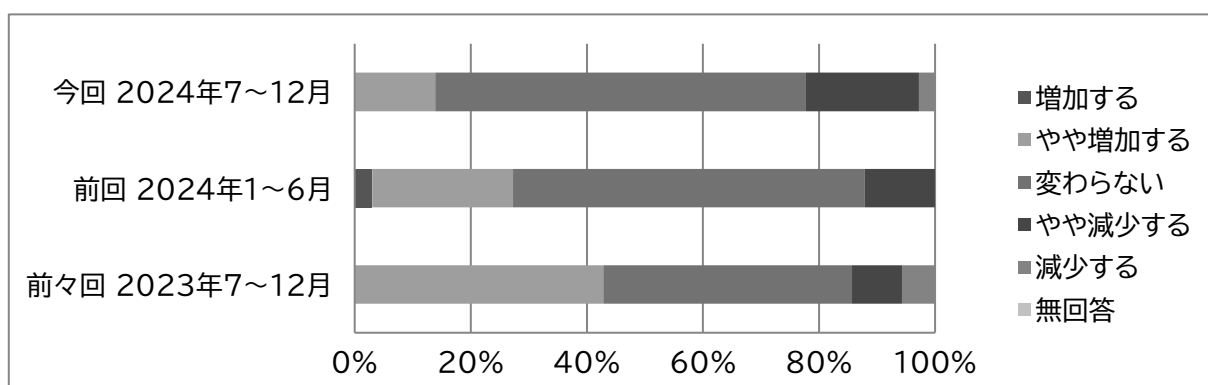
- ・ 3%ポイント以上増加:「変わらない」(+3.3)、「やや減少する」(+7.3)
- ・ 3%ポイント以上減少:「増加する」(-3.0)、「やや増加する」(-10.3)

となった。DI でみると 47.2%と前回(54.5%)から下落し、2022 年下半期(7～12 月期)の見通し以来 50%を下回った。

質問 10 の回答の理由(質問 11)についてみると、経済や政治の先行きの不透明感や、売り上げ回復の動きが鈍いことの声が聞かれた。

質問 10: 業界の小山市での売上見通し

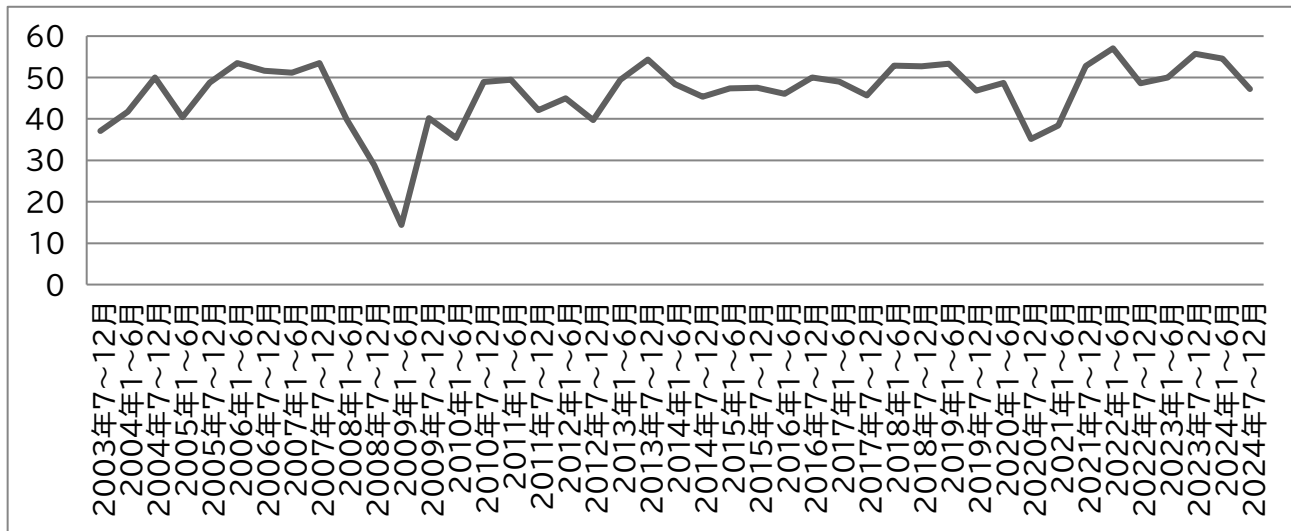
図表 3-10 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	増加する	やや増加する	変わらない	やや減少する	減少する	無回答	DI
今回 2024 年 7～12 月	0.0	13.9	63.9	19.4	2.8	0.0	47.2
前回 2024 年 1～6 月	3.0	24.2	60.6	12.1	0.0	0.0	54.5
前々回 2023 年 7～12 月	0.0	42.9	42.9	8.6	5.7	0.0	55.7

図表 3-11 DIの推移(%)



質問 11: 質問 10 の回答理由

- ◆ やや増加する
 - ・ 「コロナ禍からの脱却。」(その他(社会福祉))
- ◆ 変わらない
 - ・ 「経済環境的に不透明、選挙などもある。国、県、市」(流通業(小売業))
 - ・ 「原材料価格が安定している。」(製造業)
 - ・ 「取引先から売り上げ回復の動きがあまり見受けられないとの声が多いため。」(金融・保険業)
- ◆ やや減少する
 - ・ 「戸建住宅着工の減少」(製造業)
 - ・ 「円安等、運送料が高い」(製造業)
 など

3.2.3. 2024 年下半期(7～12 月期) の販売価格見通し(質問 12)

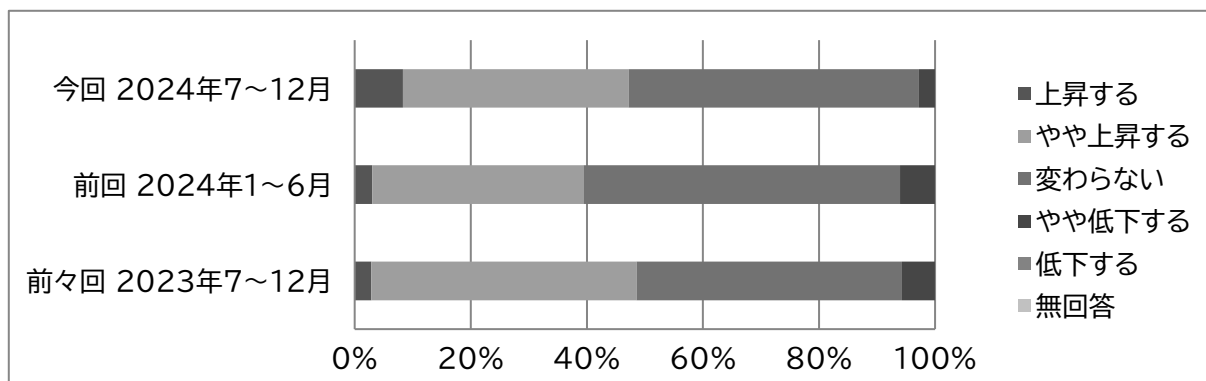
販売価格見通しについて、2024 年下半期(7～12 月期)は 2024 年上半期(1～6 月期)と比べ、「上昇する」8.3%、「やや上昇する」38.9%、「変わらない」50.0%、「やや低下する」2.8%、「低下する」0.0%となった(図表 3-12, 3-13)。前回と比べ「上昇する」の割合が上昇し、「変わらない」、「やや低下する」の割合が下落した。前回調査(2023 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「上昇する」(+5.3)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「変わらない」(-4.5)、「やや低下する」(-3.3)

となった。DI でみると 63.2%と、前回(59.1%)から上昇し、7 期連続で 50%を超え、調査開始以来最も高い水準となった。

質問 12: 2024 年下半期(7～12 月期) の販売価格見通し

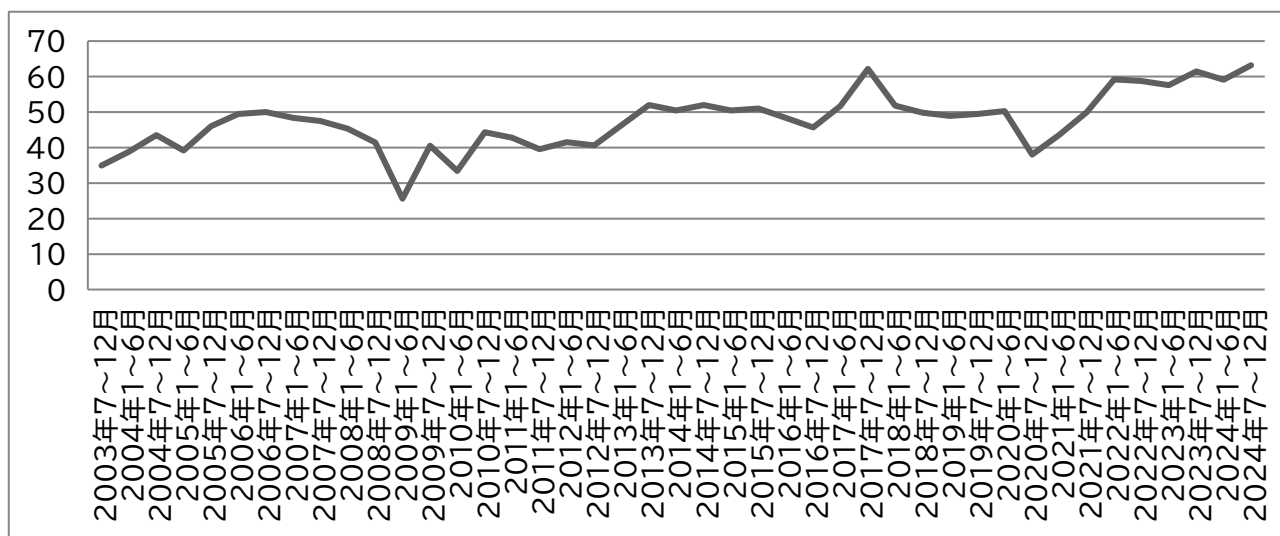
図表 3-12 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回 2024 年 7～12 月	8.3	38.9	50.0	2.8	0.0	0.0	63.2
前回 2024 年 1～6 月	3.0	36.4	54.5	6.1	0.0	0.0	59.1
前々回 2023 年 7～12 月	2.9	45.7	45.7	5.7	0.0	0.0	61.4

図表 3-13 DI の推移(%)



3.2.4. 2024 年下半期(7～12 月期) の雇用見通し(質問 13)

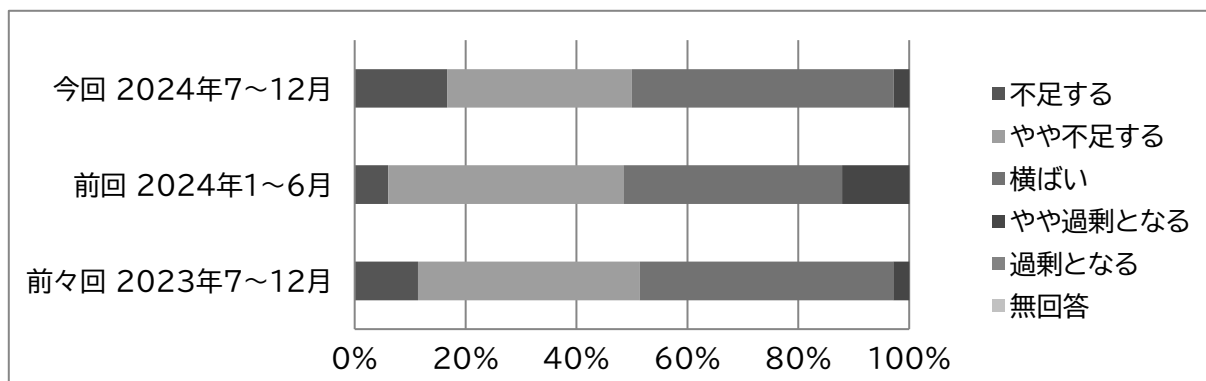
質問 13 の雇用見通しに関して、2024 下半期(7～12 月期)は 2024 上半期(1～6 月期)と比べ、「不足する」16.7%、「やや不足する」33.3%、「横ばい」47.2%、「やや過剰となる」2.8%、「過剰となる」0.0%となった(図表 3-14, 3-15)。前回と比べ「不足する」、「横ばい」の割合が上昇し、「やや不足する」、「やや過剰となる」の割合が下落した。前回調査(2023 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「不足する」(+10.6)、「横ばい」(+7.8)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや不足する」(-9.1)、「やや過剰となる」(-9.3)

となった。DI でみると 66.0%と、前回(60.6%)から上昇し、7 期連続で 50%を超え、調査開始以来最も高い水準となった。

質問 13: 2024 年下半期(7～12 月期) の雇用見通し

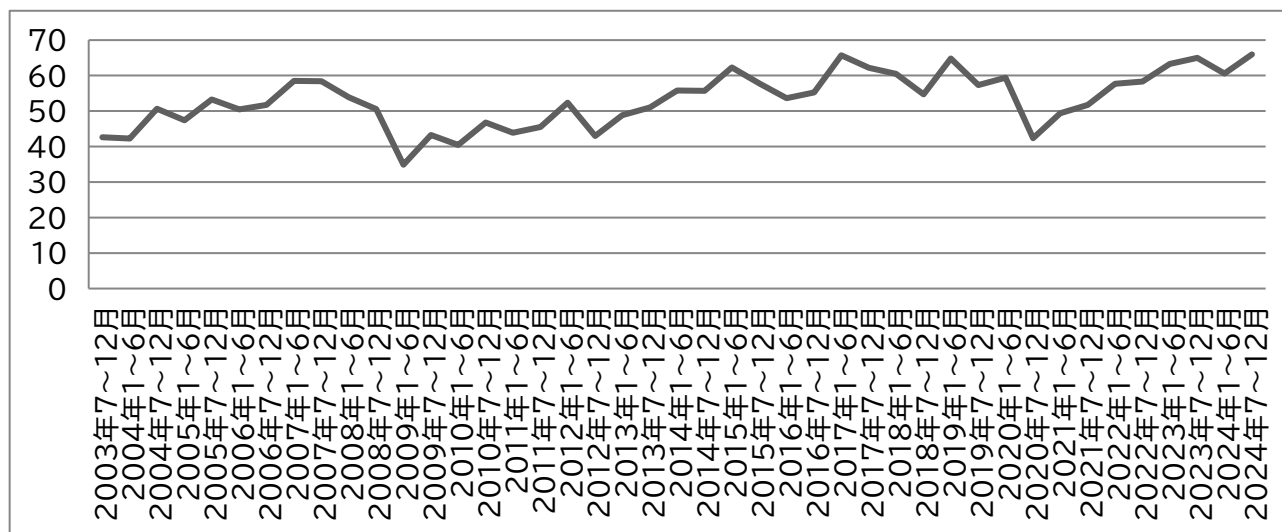
図表 3-14 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

見通しの対象時期	不足する	やや不足する	横ばい	やや過剰となる	過剰となる	無回答	DI
今回 2024 年 7～12 月	16.7	33.3	47.2	2.8	0.0	0.0	66.0
前回 2024 年 1～6 月	6.1	42.4	39.4	12.1	0.0	0.0	60.6
前々回 2023 年 7～12 月	11.4	40.0	45.7	2.9	0.0	0.0	65.0

図表 3-15 DI の推移(%)



3.2.5. 2024 年上半期(1～6 月期) の資金繰りの状況(質問 14、15)

質問 14 の資金繰りの状況に関して、2024 年上半期(1～6 月期)は 2023 年下半期(7～12 月期)と比べ、「改善した」11.1%、「やや改善した」19.4%、「どちらともいえない」55.6%、「やや悪化した」8.3%、「悪化した」2.8%となった(図表 3-16, 3-17)。前回と比べ「改善した」の割合が上昇し、「やや悪化した」の割合が下落した。前回調査(2023 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「改善した」(+11.1)
- ・ 3%ポイント以上減少: 「やや悪化した」(-12.9)

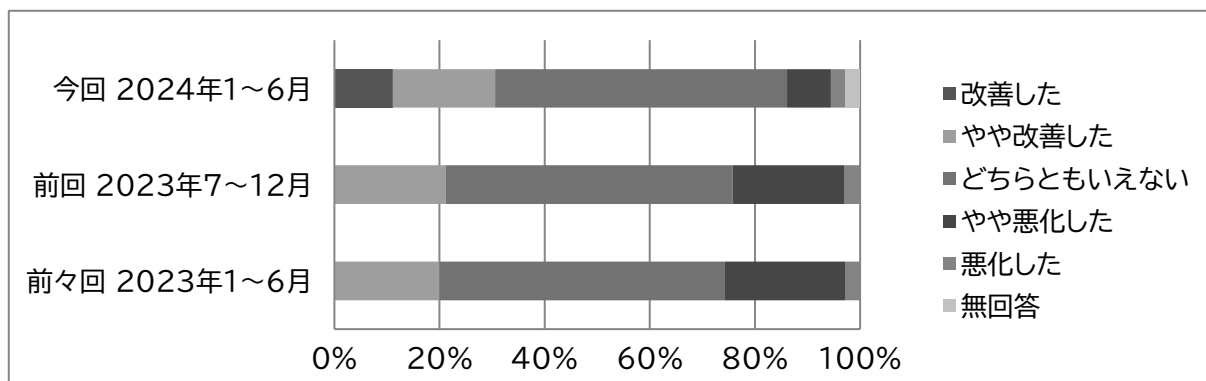
となった。DI でみると 57.1%と、前回(48.5%)から上昇し、2021 年下半期(7～12 月期)以来 50%を上回り、調査開始以来最も高い水準となった。

質問 14 の回答の理由(質問 15)についてみると、「売上高の変化」(55.6%)、「人件費の変化」(38.9%)、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(36.1%)が上位三位までの理由だった(図表 3-18)。前回から、「人件費の変化」の割合が大きく上昇し、「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」の割合が大きく下落している。前回調査(2023 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「売上高の変化」(+7.1)、「設備資金需要の変化」(+5.3)
「人件費の変化」(+14.7)、「その他」(+5.0)
 - ・ 3%ポイント以上減少: 「仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化」(-15.4)、「無回答」(-12.1)
- となった。

質問 14: 2024 年上半期(1～6 月期) の資金繰りの状況

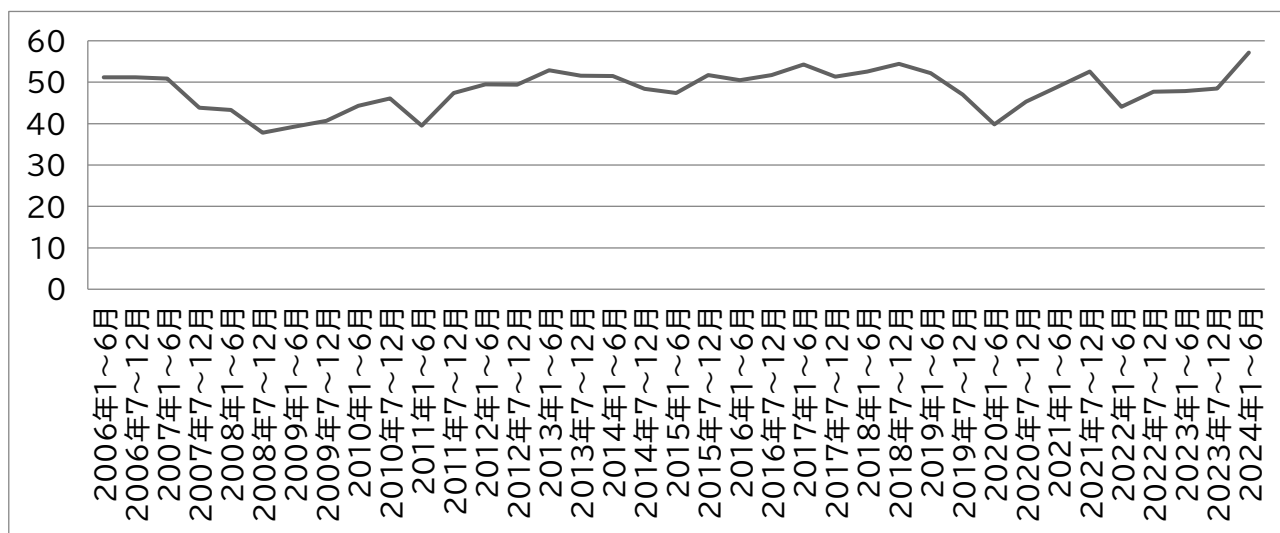
図表 3-16 回答の割合と DI(前回、前々回との比較を含む)



(%)

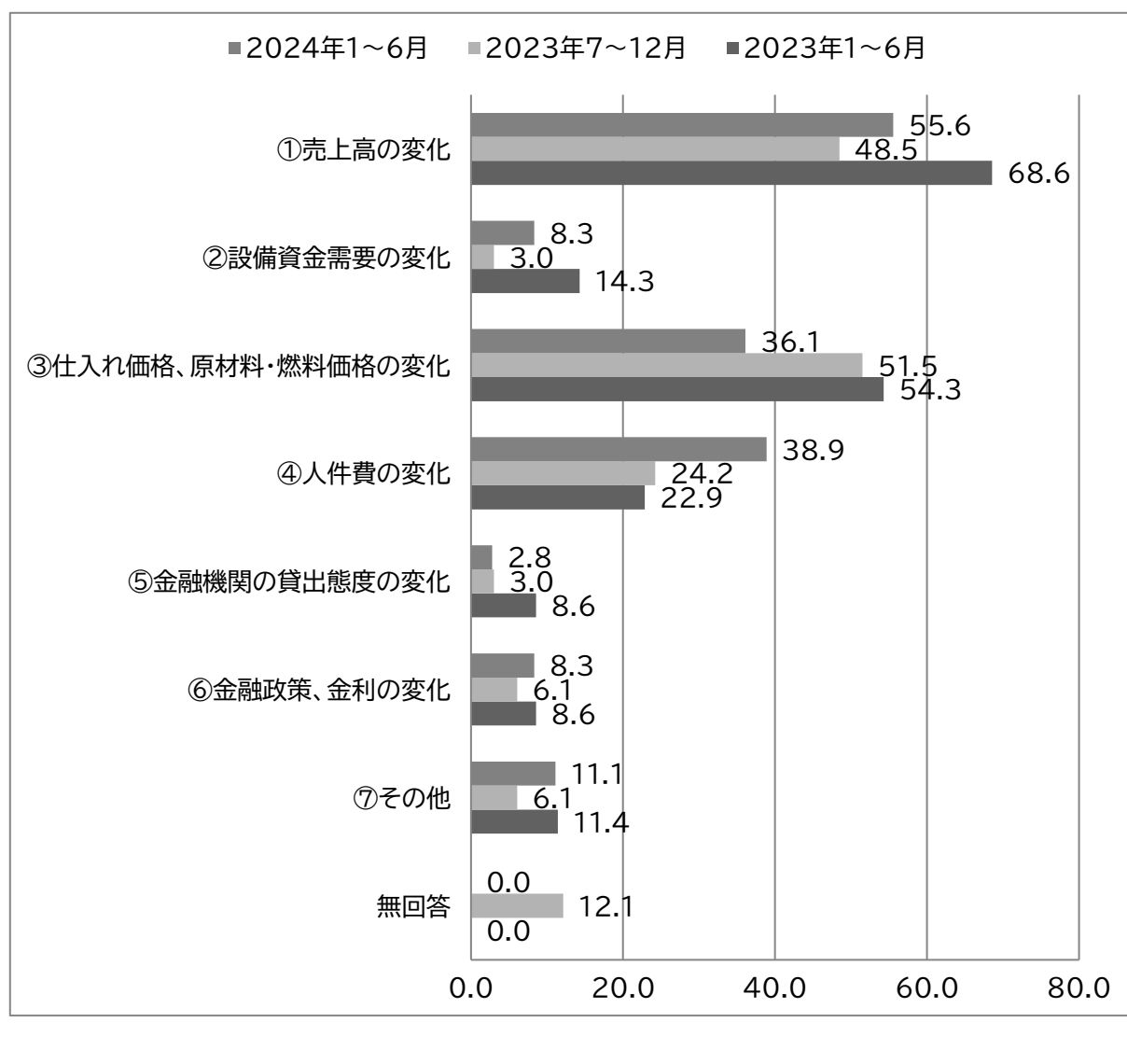
	改善した	やや改善した	どちらともいえない	やや悪化した	悪化した	無回答	DI
今回 2024 年 1～6 月	11.1	19.4	55.6	8.3	2.8	2.8	57.1
前回 2023 年 7～12 月	0.0	21.2	54.5	21.2	3.0	0.0	48.5
前々回 2023 年 1～6 月	0.0	20.0	54.3	22.9	2.9	0.0	47.9

図表 3-17 DI の推移(%)



質問 15: 質問 14 の回答理由

図表 3-18 回答の割合(前回、前々回との比較を含む、%)



(%)

質問 15	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	無回答
質問 14								
改善した	2.8	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	2.8	0.0
やや改善した	13.9	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0	2.8	0.0
どちらともいえない	33.3	2.8	27.8	25.0	0.0	5.6	5.6	0.0
やや悪化した	2.8	2.8	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
悪化した	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0
無回答	2.8	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	55.6	8.3	36.1	38.9	2.8	8.3	11.1	0.0

(注) 36 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

3.2.6. 賃金等の状況(質問 16, 17)

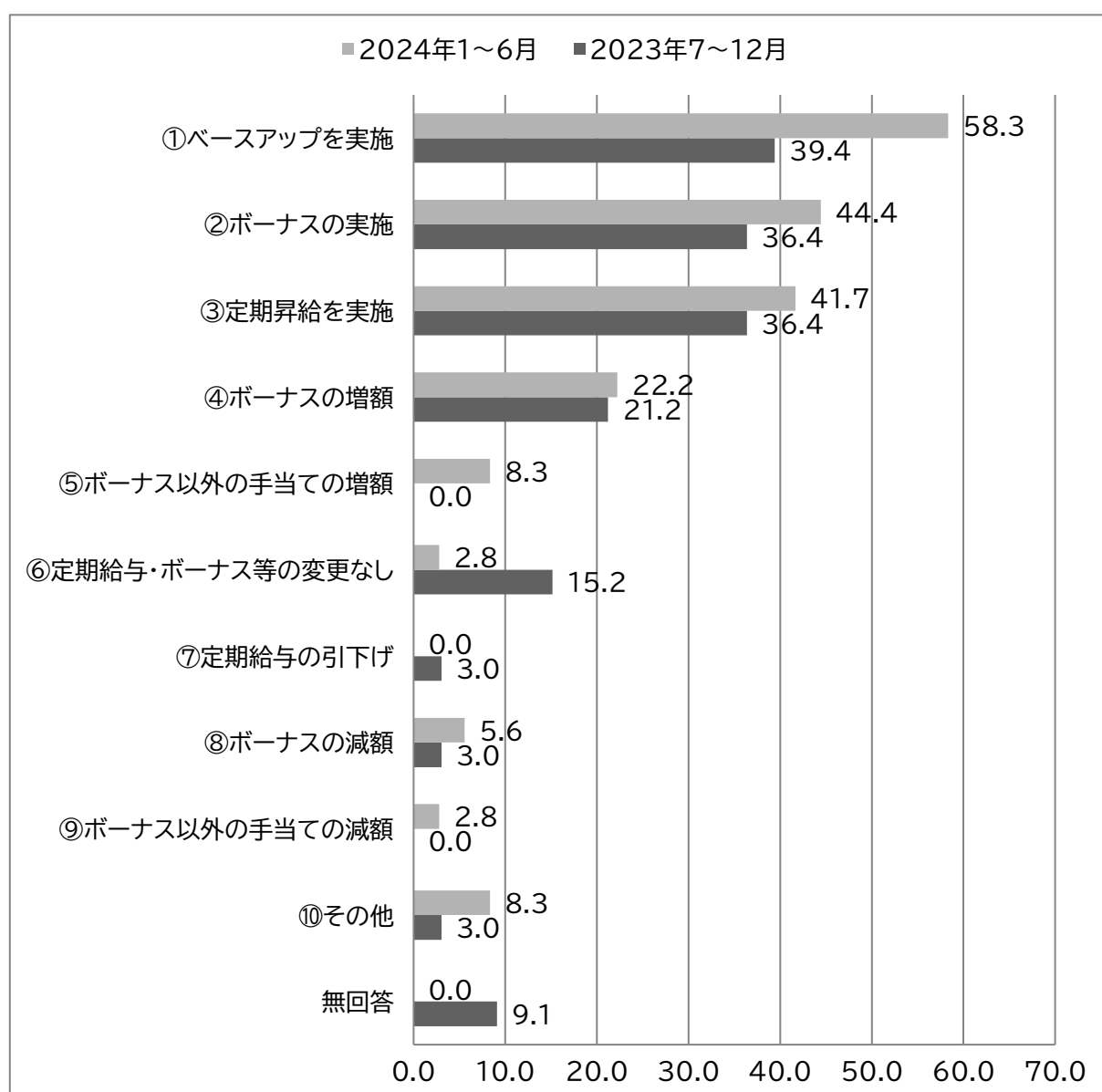
前回調査(2023 年 12 月)と比べ、

- ・ 3%ポイント以上増加: 「ベースアップを実施」(+18.9)、「ボーナスの実施」(+8.0)、
「定期昇給を実施」(+5.3)、「ボーナス以外の手当ての増額」(+8.3)、
「その他」(+5.3)、
- ・ 3%ポイント以上減少: 「定期給与・ボーナス等の変更なし」(-12.4)、
「定期給与の引下げ」(-3.0)、「無回答」(-9.1)

となった。

質問 16: 賃金等の状況

図表 3-19 回答の割合(前期との比較を含む、%)



(注) 今回調査は 36 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 17: 質問 16 の回答理由

- ◆ ①ベースアップを実施
 - ・ 「物価上昇、雇用確保への対応」
- ◆ ②ボーナスの実施
 - ・ 「希望としては①を実施したいが、会社の状況が悪すぎる為、できない。」
- ◆ ⑧ボーナスの減額
 - ・ 「売上の減少が続くため、定期昇給、ボーナスの支給を停止した。」
- ◆ ⑩その他
 - ・ 「常に市場の賃金と自主の人件費と売価を設定した。」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施
 - ・ 「物価高により、社員の生活費が多くなる為。」
 - ・ 「円安・物価高の為、実質賃金下がっている。」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「従業員のモチベーション維持、向上、企業の持続的に発展に繋がると考え実施。」
 - ・ 「ベースアップを実施、特に若年層への賃金引き上げを厚くしている。」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「人員確保のため」
- ◆ ①ベースアップを実施、②ボーナスの実施、⑤ボーナス以外の手当の増額
 - ・ 「国からの助成金がアップしたため。」
- ◆ ①ベースアップを実施、③定期昇給を実施、
 - ・ 「ベースアップを昨年から行っており、ボーナスの定額支給も行った。」
- ◆ ①ベースアップを実施、③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「親会社の業績が好調のため」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施
 - ・ 「夏季ボーナスに比し、冬季を増額したい。」
- ◆ ②ボーナスの実施、③定期昇給を実施、④ボーナスの増額、⑩その他
 - ・ 「・年間休日を増やし、採用面では効果が出ている。
・上期の中、雇用維持等の側面から定期昇給・ボーナスの増額を実施。」
- ◆ ③定期昇給を実施、④ボーナスの増額
 - ・ 「コロナ後の売り上げ回復による収支改善したため。」
- ◆ ⑧ボーナスの減額、⑨ボーナス以外の手当の減額
 - ・ 「業績が上がっているわけではないため。」
など

3.3. 昨今の社会・経済情勢に関する質問

質問 18～23 は、小山市における昨今の社会・経済情勢に関する質問を行った。以下その結果を述べる。

3.3.1. 「2024 年問題」に関する質問

質問 18～20 は「2024 年問題」に関する質問事項である。

質問 18 では、荷主企業として「2024 年問題」の影響をどのように受けるのかをたずねた。

「荷主企業でない」、「無回答」を除いて、「配送コストが高騰する」(25.0%)、「特に影響はない」(16.7%)、「集荷時間など配送スケジュールを調整する」(8.3%)が上位三位までの理由だった(図表 3-20)。

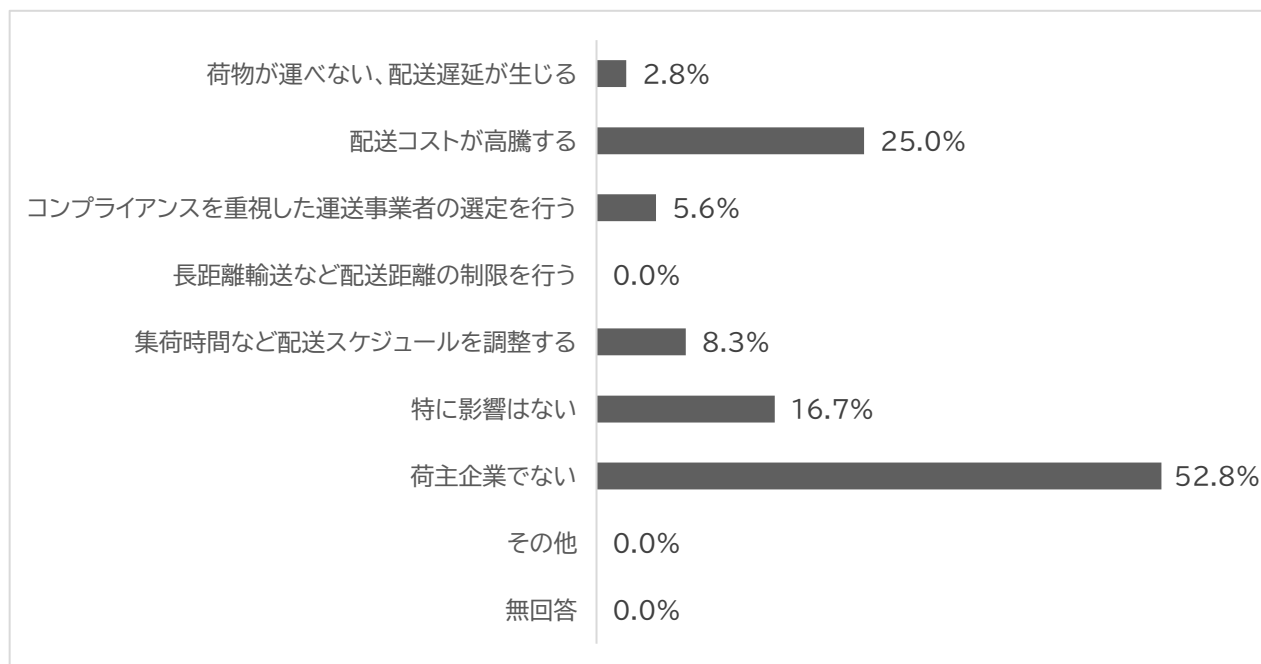
次に、質問 19 では、運送事業者として「2024 年問題」の影響をどのように受けるのかをたずねた。

「運送事業者でない」、「無回答」を除いて、「特に影響はない」(8.3%)、「営業収入が減少する」(5.6%)、「ドライバー等の賃金が減少する」(2.8%)、「荷主等との交渉を行わなくてはならない」(2.8%)が上位三位までの理由だった(図表 3-21)。

最後に、質問 20 では、「2024 年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題をたずねた。配送コストの上昇やドライバーの管理といった問題が指摘され、それに関する対応策が述べられていた。

質問 18: 「2024 年問題」の影響(荷主企業)

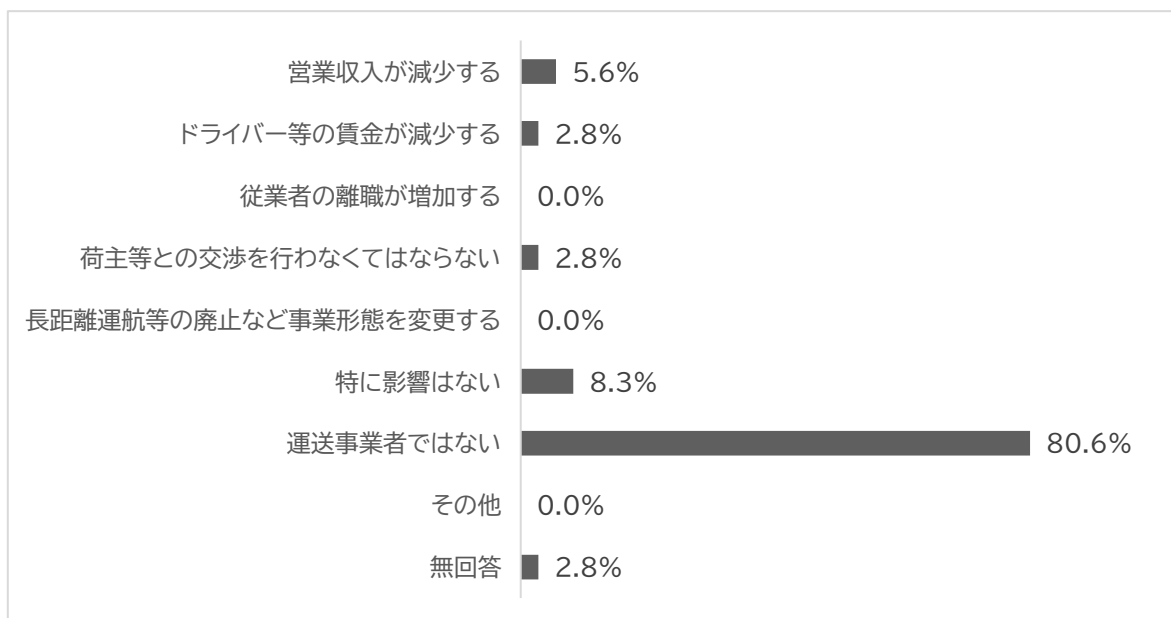
図表 3-20 回答の割合



(注) 36 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 19: 「2024 年問題」の影響(運送事業者企業)

図表 3-21 回答の割合



(注) 36 社に対する比率。複数回答があり、合計は 100%にならない。

質問 20: 「2024 年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題

- ・ 「運輸業に対する国の認識、実態把握が甘すぎる。」(質問 18⑦、質問 19①)
 - ・ 「配送コストや時間に制限が多くなる為、仕事の集中化(配送場所の集中化)やムダな在庫の圧縮等に取り組んでいる。」(質問 18①、②、③、⑤、質問 19⑦)
 - ・ 「・配送リードタイムが長くなりつつあるため。
 - ・在庫量のコントロールに更なる制度が必要になってきている。」(質問 18②、質問 19⑦)
 - ・ 「配送コストの上昇を価格転嫁することを検討。」(質問 18②、質問 19⑦)
 - ・ 「工場内での待機時間をコントロールしている。」(質問 18⑥、質問 19⑦)
 - ・ 「ドライバーの減少を抑える為、お客様との運賃の値上げ交渉は積極的に行っている。弊社は軽貨物運送業なので、直接 2024 年問題に抵触するわけではないが、ドライバーの拘束時間の管理等は行っていかなければいけないと思っている。」(質問 18⑦、質問 19①、④)
 - ・ 「・配送コスト増による、業者へ値下げ交渉を積極的に実施。
 - ・複数業者への合い見積もり取得。
 - ・配送コスト削減を課題としている。」(質問 18②、質問 19⑦)
- など

3.3.2. 外国為替レートに関する質問

質問 21～23 では外国為替レートに関する質問を行った。

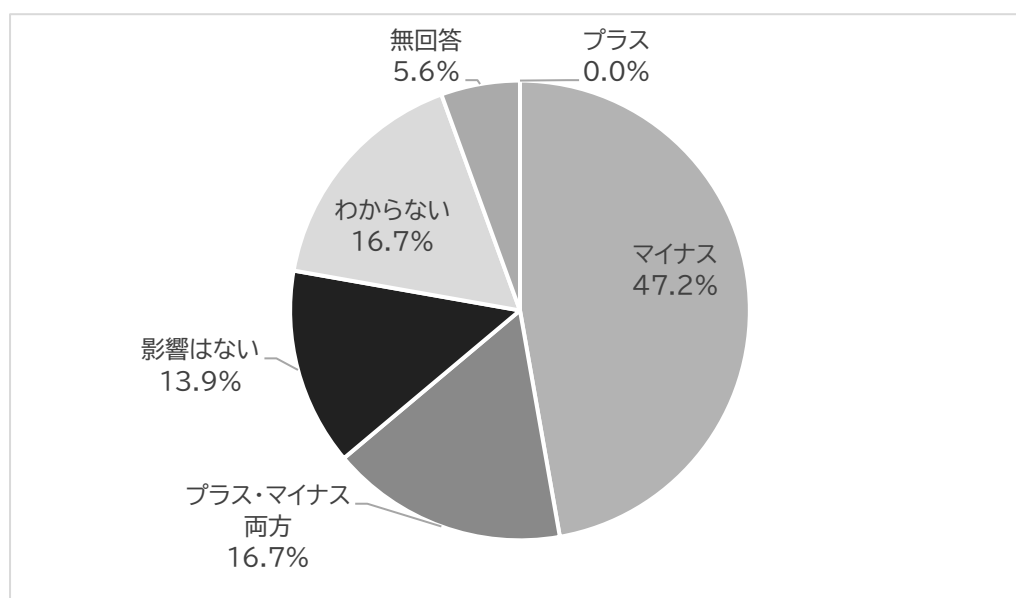
まず、質問 21 では、昨今の円安ドル高がプラスに働くか、マイナスに働くかをたずねた。「マイナス」が 47.2%と最も高い割合であり、次に「プラス・マイナス両方」が 16.7%となった(図表 3-22)。

次に、質問 22 では、望ましい為替レートの水準をたずねた。「無回答」を除いて、「わからない」(33.3%)、「1ドル 120 円以上～130 円未満」(27.8%)、「1ドル 110 円以上～120 円未満」(13.9%)が上位三位までの理由だった(図表 3-23)。

最後に、質問 23 では、昨今の為替レートの動きについての意見を聞いた。輸入原材料費の高騰など円安の悪影響を指摘する意見が多く挙げられていた。

質問 21: 昨今の円安ドル高はプラスかマイナスか

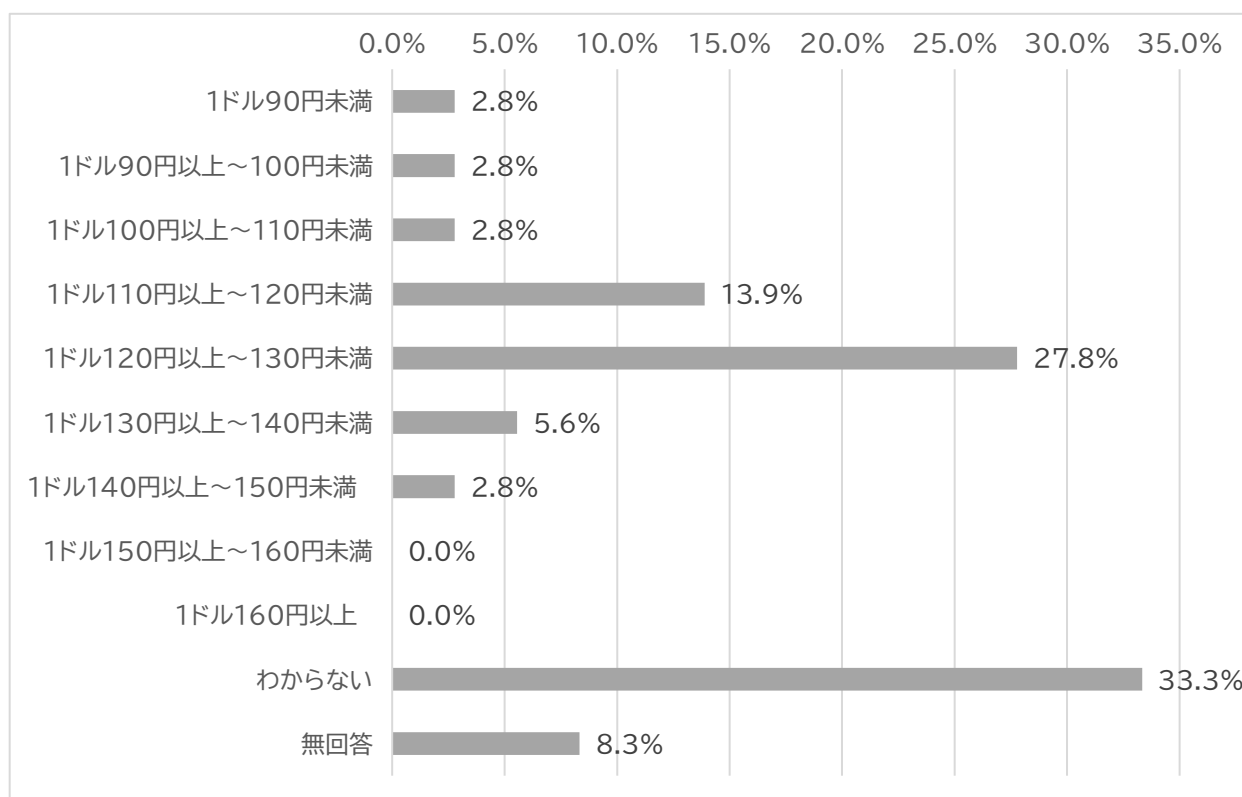
図表 3-22 回答の割合



(注)36 社に対する比率

質問 22: 望ましい為替レート水準

図表 3-23 回答の割合



(注)36 社に対する比率。

質問 23: 為替レートの動きについての意見

- ・ 「・ドル以外の通貨にも安い為、原材料や加工品の価格が上昇。
・ガソリン等も下がらない為、悪影響多い。」(質問 21③、質問 22⑥)
 - ・ 「円安は先行指標です。輸入原料が上がり、その後プラスチック材料が上がってきます。一度上がると、なかなか下がってこないのが現状です。」(質問 21②、質問 22⑤)
 - ・ 「当社の主業は農機製造業です。円安により農家さんが使用する肥料が高騰し、なかなか農機購入まで資金がまわらないといった状況が発生しています。」(質問 21②、質問 21⑤)
 - ・ 「急激な変化は望まない。」(質問 21③、質問 22⑦)
 - ・ 「円安が進んでおり、原材料の仕入高の影響が出ている企業が増えている。」(質問 21②、質問 22⑥)
- など

4. まとめ

最近の日本経済の動きを GDP 速報(2024 年 4～6 月期・1 次速報(2024(令和 6)年 8 月 15 日公表))でみると、2024 年の名目 GDP 成長率は前年比 4.9%増、実質 GDP 成長率(2015 年暦年連鎖価格)は前年比 0.8%増となった。四半期別(季節調整済、前期比)でみると、2024 年 4～6 月期の名目 GDP1.8%増、実質 GDP 成長率は 0.8%増となった。個人消費や設備投資の増加により 2 四半期ぶりのプラス成長となった。2024 年 4～6 月期の名目 GDP は年換算で 607.9 兆円となり、初めて 600 兆円に達した。

こうした状況のなか 2024 年 6 月から 7 月にかけて実施した「小山市景気動向アンケート調査(2024 年度第 1 回)」の結果は、アンケート調査の DI から景気の状態はやや低下傾向にあり、景気見通しに関しては 2023 年上半期(1～6 月期)の見通し以来、DI が 50%を下回った。この要因として、コロナ禍による低迷から脱したりベンジ消費が一巡したことに加え、物価上昇が継続しており、後述する歴史的な円安ドル高傾向があると考えられる。他方で、今回調査の、販売価格見通し、雇用見通し、資金繰りの状況の DI は調査開始以来最も高い水準となった。過去十数年間とは物価や雇用を取り巻く状況が変わりつつあることを念頭に置くべきだろう。

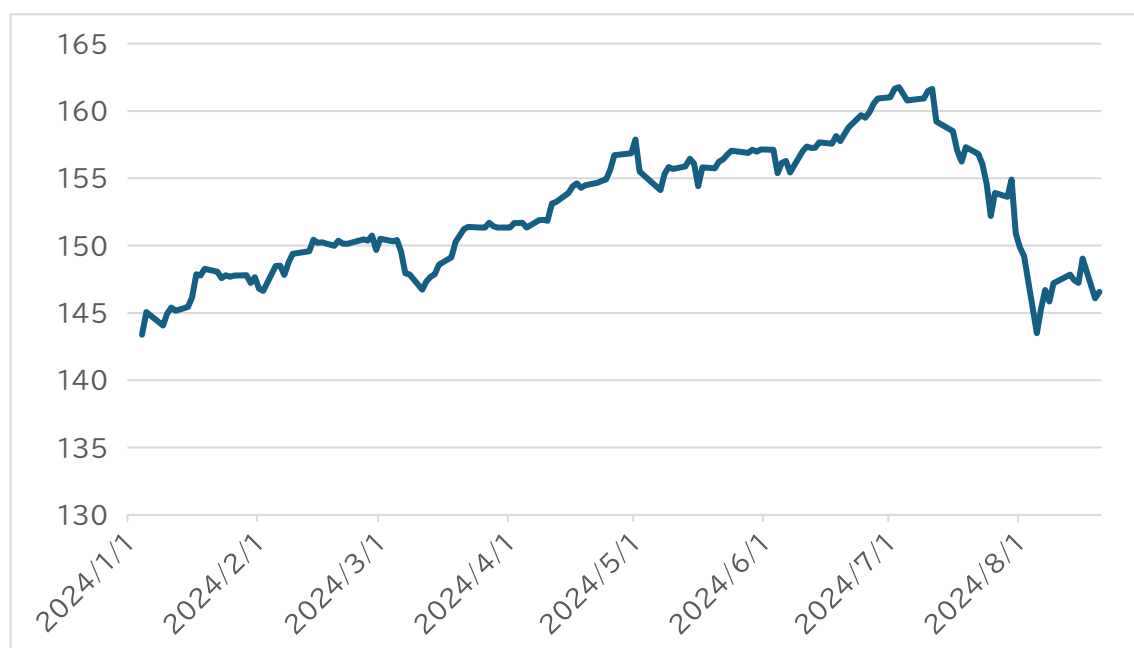
2024 年は年初から円安ドル高が進み、6 月から 7 月にかけて 1 ドル 161 円台まで下落し、1986 年以来 37 年ぶりの円安水準となった(図 5-1)。この円安ドル高の背景には、日米の金利差に加え、投機筋による円売りの増加、アメリカ経済の堅調さによるドル需要の高まりがあった。このような状況のもとで行った、昨今の為替レートに関する質問(質問 21～23)では、円安ドル高はマイナスであるとの回答が半数近くを占め、望ましい為替レートの水準も、1 ドル 120 円以上～130 円未満との回答が最も多かったことから、行き過ぎた円安ドル高の是正が期待されている。

そのような中、7 月末の金融政策決定会合で日本銀行は利上げに踏み切り、同時期にアメリカの中央銀行にあたる FRB(連邦準備制度理事会)が利下げを示唆したことがきっかけとなり、為替レートは円高ドル安方向へと転換した。原稿執筆時点(8 月 22 日)で 1 ドル 146 円台まで円高ドル安が進んでいる。

日銀は今年に入ってから長らく続けられてきたマイナス金利の解除をはじめとした異次元の金融緩和を終了させ、短期の政策金利を操作する通常の金融政策への移行が進んでいる。いわゆる金融政策の正常化に向けて動き出した。前述した 7 月の利上げに加えて、物価の状況に応じてさらなる利上げもありうることを示唆されている。FRB も 9 月会合での利下げ観測が強まっていることから、今後この方向性が維持されるのであれば、日米の金利差は縮小し、歴史的な円安は終わりつつあるものとみられている。

2024 年 8 月 14 日、岸田文雄総理大臣は 9 月の自民党総裁選挙に立候補しない意向を表明した。これにより、新総裁の選出後、総理大臣を退任することとなった。11 月にはアメリカ大統領選を控えており、日米ともに政治的な転換期を迎えることになる。

図表 5-1 為替レートの推移²



² 日本銀行ウェブページより筆者作成

(参考資料)

i. 小山市景気動向アンケート調査票(2024 年度第 1 回)

小山市景気動向アンケート調査 調査票(2024 年度第 1 回)

【フェースシート】

小山市経済動向実態調査以外の目的には一切使用いたしませんので、下記の項目にご記入いただきますようお願い申し上げます。

1. 貴店(貴社)の主とする業種(小山市にある事業所(店舗)で取り扱っている業種)は何ですか。最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 流通業(小売業) ② 製造業 ③ 金融・保険業 ④ 運輸業 ⑤ ホテル・旅館業
⑥ 飲食業 ⑦ 通信・放送業 ⑧ 不動産・住宅業 ⑨ サービス業 ⑩ 印刷業
⑪ その他()
2. 貴店(貴社)の従業者数(パート・アルバイトを含む)(小山市の事業所(店舗)における従業者)について、当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 1~4 人 ② 5~9 人 ③ 10~19 人 ④ 20~29 人
⑤ 30~49 人 ⑥ 50~99 人 ⑦ 100 人以上 ⑧ 不明
3. 貴店(貴社)の年間売上げ(小山市の事業所(店舗)における売上げ)について、当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 3000 万円未満 ② 3000 万円~1 億円未満 ③ 1 億円~5 億円未満
④ 5 億円~10 億円未満 ⑤ 10 億円以上 ⑥ 不明
4. 貴店(貴社)の小山市の店舗(事業所)における売上げのうち、小山市内の企業、消費者からの需要の割合はおよそどのくらいですか。当てはまるものを一つ選んで○をつけてください。
① 80~100% ② 60~79% ③ 40~59% ④ 20~39% ⑤ 0~19% ⑥ 不明
5. 調査の回答に関する連絡先(社判等でも差支えございません)

貴店(貴社)のお名前:

ご担当者名:

ご住所:

電話番号:

E-mail:

お忙しいところご協力ありがとうございます。次ページ以降の調査にご回答いただきました方には、次回調査時に今回の調査結果とともに、些少ながらクオカード(1000 円)をお送りいたします。

「小山市経済動向実態調査」

委託元 小山市産業観光部商業観光課

調査受託 白鷗大学ビジネス開発研究所

電話:0285-22-1111(大学・代表)

Fax:0285-20-8157

調査担当(西谷、高木、八尾、櫻庭)

〔質問項目〕

2024年6月現在の状況でお答え下さい。1.から23.(6ページ目)までご回答のほどよろしくお願い申し上げます。

1. 現在の小山市の景気についての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて2024年上半期(1～6月期)の景気は良いと思いますか、悪いと思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(水準)

① 良い ② やや良い ③ どちらともいえない ④ やや悪い ⑤ 悪い

2. 1.のご回答の理由として、どのような点に着目されましたか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

① 小山市の人出の状況 ② お客様や取引先の様子(購買態度など)
③ 物価の動き ④ 雇用の状況 ⑤ 周辺地域の様子
⑥ その他()

3. 2.の回答内容について具体的に説明してください。

4. 小山市の景気の先行きについての質問です。あなたの日々の仕事やお客様の様子からみて、2024年下半期(7～12月期)の景気は、2024年上半期(1～6月期)と比べて良くなると思いますか、悪くなると思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(将来の方向)

① 良くなる ② やや良くなる ③ 変わらない ④ やや悪くなる ⑤ 悪くなる

5. 4.の回答内容について具体的に説明してください。

6. 貴店(貴社)の売上げ等からみて、貴業界の小山市における 2024 年上半期(1～6 月期)の需要は季節的な要因を除いて、2023 年下半期(7～12 月期)にくらべて売上金額で増加したと思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 増加した ② やや増加した ③ 変わらない ④ やや減少した ⑤ 減少した

7. 6.でそのように回答された理由として、もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。家計消費向け取引(B to C)を行っていない場合は「家計消費向け取引(B to C)を行っていない」に○をつけてください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【家計消費向け取引(B to C)の場合】

- ① 来客数の動き ② 販売量の動き ③ 客単価の動き ④ 販売価格の動き
⑤ お客様の様子 ⑥ 競争相手の様子 ⑦ 家計消費向け取引(B to C)を行っていない
⑧ その他()

8. 6.でそのように回答された理由として、もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。企業向け取引(B to B)を行っていない場合は、「企業向け取引(B to B)を行っていない」に○をつけてください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

【企業向け取引(B to B)の場合】

- ① 受注量や販売量の動き ② 受注価格や販売価格の動き ③ 取引先の様子
④ 競争相手の様子 ⑤ 企業向け取引(B to B)を行っていない
⑥ その他()

9. 7.、8.の回答内容について具体的に説明してください。

10. 貴店(貴社)の売上げの動き等からみて、貴業界の小山市における 2024 年下半期(7～12 月期)の売上高(生産高)の見通しをお伺いします。2024 年上半期(1～6 月期)と比べて、季節的な要因を除いて、2024 年下半期(7～12 月期)の売上高(生産高)は増加すると思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(売上高の先行き)

- ① 増加する ② やや増加する ③ 変わらない ④ やや減少する ⑤ 減少する
②

11. 10.でそのように回答した理由を教えてください。

12. 貴店(貴社)の販売価格の動き等からみて、貴業界の小山市における 2024 年下半期(7～12 月期)の 販売価格の見通しをお伺いします。2024 年上半期(1～6 月期)と比べて、2024 年下半期(7～12 月期)の販売価格はどうなると思いますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(価格見通し)

- ① 上昇する ② やや上昇する ③ 変わらない ④ やや低下する ⑤ 低下する

13. 貴店(貴社)の雇用(従業員)の状況等からみて、貴業界の小山市における 2024 年下半期(7～12 月期)の 雇用状況の見通しをお伺いします。2024 年上半期(1～6 月期)と比べて、2024 年下半期(7～12 月期)の雇用状況はどうなると思いますか。従業員が不足しますか、過剰になりますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。(雇用見通し)

- ① 不足する ② やや不足する ③ 横ばい ④ やや過剰となる ⑤ 過剰となる

14. 貴店(貴社)あるいは貴業界における 資金繰りの状況をお伺いします。貴店(貴社)の 2024 年上半期(1～6 月期)における資金繰りは、2023 年下半期(7～12 月期)にくらべて改善しましたか、悪化しましたか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 改善した ② やや改善した ③ どちらともいえない ④ やや悪化した ⑤ 悪化した

15. 14.でそのように回答した理由をあげてください。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 売上高の変化 ② 設備資金需要の変化 ③ 仕入れ価格、原材料・燃料価格の変化
④ 人件費の変化 ⑤ 金融機関の貸出態度の変化 ⑥ 金融政策、金利の変化
⑦ その他()

16. 貴店(貴社)における 2024 年度の主な従業員の 賃金等の状況をお伺いします。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① ベースアップを実施 ② ボーナスの実施 ③ 定期昇給を実施 ④ ボーナスの増額
⑤ ボーナス以外の手当の増額 ⑥ 定期給与・ボーナス等の変更なし ⑦ 定期給与の引下げ
⑧ ボーナスの減額 ⑨ ボーナス以外の手当の減額
⑩ その他()

17. 16. でそのように回答した具体的内容・理由を記入してください。

【「2024 年問題」に関する質問】

働き方改革関連法案により、2024 年 4 月 1 日から、自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限規制が適用されました。この規制が適用されることによる諸問題は「2024 年問題」と呼ばれています。「2024 年問題」に関して以下の質問に回答してください。

18. 「2024 年問題」により、荷主企業としてどのような影響を受けていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。荷主企業に該当しない場合は「荷主企業でない」を選択してください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 荷物が運べない、配送遅延が生じている ② 配送コストが高騰している
- ③ コンプライアンスを重視した運送事業者の選定を行っている ④ 長距離輸送など配送距離の制限を行っている
- ⑤ 集荷時間など配送スケジュールを調整している ⑥ 特に影響はない ⑦ 荷主企業でない
- ⑧ その他()

19. 「2024 年問題」により、運送事業者としてどのような影響を受けていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください(複数回答可)。運送事業者に該当しない場合は「運送事業者でない」を選択してください。「その他」の場合は、その理由を()内に記入して下さい。

- ① 営業収入が減少している ② ドライバー等の賃金が減少している ③ 従業員の離職が増加している
- ④ 荷主等との交渉を行っている ⑤ 長距離運航等の廃止など事業形態を変更した
- ⑥ 特に影響はない ⑦ 運送事業者でない
- ⑧ その他()

20. 「2024 年問題」に対応するための取り組みや、現在認識している課題について記入してください。

〔外国為替レートに関する質問〕

外国為替レートは、2021 年以降円安傾向で推移していますが、昨今の為替レートの動きに関して、以下の質問に回答してください。

21. 昨今の円安ドル高は貴社(貴店)にとってプラスに働きますか、マイナスに働きますか。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① プラス ② マイナス ③ プラス・マイナス両方 ④ 影響はない ⑤ わからない

22. 貴社(貴店)にとって望ましい為替レートの水準を教えてください。もっとも適当と思われるものを一つ選んで○をつけてください。

- ① 1ドル 90 円未満 ② 1ドル 90 円以上～100 円未満 ③ 1ドル 100 円以上～110 円未満
④ 1ドル 110 円以上～120 円未満 ⑤ 1ドル 120 円以上～130 円未満
⑥ 1ドル 130 円以上～140 円未満 ⑦ 1ドル 140 円以上～150 円未満
⑧ 1ドル 150 円以上～160 円未満 ⑨ 1ドル 160 円以上
⑩ わからない

23. 昨今の為替レートの動きについてご意見がありましたら記載してください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

ii. 小山市景気動向アンケート調査(2024 年度第 1 回)の回答一覧

選択回答 質問 1～8

No	質問 1	質問 2	質問 4	質問 6	質問 7	質問 8
1	4	1	4	2	3	2
2	4	3	3	2	7	3
3	3	5	3	3	1	1
4	4	2	3	3	2	
5	3	4	3	4	7	5
6	2	1	3	3	2	3
7	2	1	4	2	1	1
8	2	1, 2, 3, 4	2	2	1, 2, 3, 4	1
9	3	2, 5	3	3	5	5
10	3	2	3	3	7	1
11	5	4	4	5	3	1
12	3	2	3	3	7	1
13	2	3	3	2	1, 3	5
14	3	1, 2	3	3	7	2
15	2	2	3	2	5	3
16	5	2	4	1	7	
17	2	2	3	3	2	1
18	3	4	3	2	6	2
19	4	3	4	2	5	2
20	3	2	5	3	1	2
21	1		3	3	7	3
22	3	1	2	3	7	1
23	2	5	2	3	7	6
24	2	2	3	2	3, 4	
25	4	4	3	4	7	1
26	3	3	3	3	7	1
27	3	1	3	2	7	2
28	4	2	4	3	2	1
29	3	2	3	3	2	3
30	4	2	2	4	7	1
31	3	2	3	3	7	1
32	3	3	3	4	7	1

33	5	5	5	3	1	4
34	4	2	3	3	2	3
35	4	2	3	3	5	3
36	2	1	3	2	1	1

選択回答 質問 10～16

No	質問 10	質問 12	質問 13	質問 14	質問 15	質問 16
1	4	1	2	2	1	1
2	3	3	1	3	3	4
3	3	2	3	2	7	3, 4
4	3	3	3	3	3	2, 3
5	4	2	3	3	1, 4	1, 2, 3, 4
6	3	4	2	3	1, 4, 6	8, 9
7	4	2	2	3	1, 3, 4	1, 3, 4
8	4	2	3	1	7	2, 3, 4, 10
9	3	2	3	3	6	6
10	3	3	3	3	1, 3, 4	1, 3, 4
11	3	3	1	1	4	3
12	2	2	2	2	3, 4	1
13	3	3	2	3	1, 3	1
14	2	1	3	1, 3	1, 2	1, 2
15	3	2	3	3	7	1
16	4	1	1	4	4	1
17	3	3	2	2	1	5
18	3	3	2	3	1, 4	1, 2
19	3	2	3	2	1	3
20	4	3	3	3	3	1
21	3	3	3	1	1	2, 4
22	3	2	3	3	1, 4	1, 2
23	3	3	1	1	4	10
24	3	2	2	3	7	1, 2, 3
25	4	2	4	4	1, 3	8
26	3	3	2	3	3	1, 2, 3
27	3	3	2	2	1	1, 3
28	3	3	3	3	1	1
29	3	3	3	3	1	10
30	2	3	3	5	5, 6	2
31	3	3	3	3	1	2, 3
32	2	2	2	4	2, 3, 4	1, 2, 3
33	5	3	2	3	1, 3, 4	1, 2, 3, 4, 5
34	3	3	3	2	1	1, 2
35	3	2	1	3	1, 2, 3, 4	1, 2, 3

36	2	2	1	3	3, 4	1, 2, 5
----	---	---	---	---	------	---------

選択回答 質問 18～24

No	質問 18	質問 19	質問 21	質問 22
1	5, 6	7	2	10
2	7	6	2	1
3	7	7	2	4
4	6	7	2	5
5	7	7	3	5
6	7	1	5	2
7	2	7	3	5
8	1, 2, 3, 5	7	3	6
9	6	7	2	4
10	7	7	4	10
11	7	7	3	5
12	2	7	5	10
13	7	7	5	5
14	2	7	4	10
15	7	7	3	10
16	3	2		
17	2	7	4	10
18	6	6	4	10
19	7	7	2	10
20	7	7	2	
21	7	7		
22	2	7	2	5
23	5	7	2	5
24	2		2	5
25	2	7	2	5
26	6	7	5	10
27	6	7	2	3
28	7	7	2	4
29	7	7	3	7
30	7	1, 4	2	5
31	7	7	2	4
32	2	7	4	10
33	7	7	5	10
34	7	6	2	4
35	7	7	2	6

36	7	7	5	10
----	---	---	---	----

記述回答 質問 1～3

No	質問 1	質問 2	質問 3
1	4	1	店舗(路面店・ショッピング共に)の客数低減
2	4	3	小山市だけではありませんが、物価高騰により消費を抑える方向にある為。
3	3	5	同業他社の動向
4	4	2	
5	3	4	人手不足
6	2	1	市内の開発、工事、イベントなどが活発に行われているから。
7	2	1	観光(インバウンド含)や出張等の動き
8	2	1, 2, 3, 4	人流の動きは活発になってきて、お客様の購買意欲や実績も前年を越えている。物価上昇に伴う売価への転嫁も見られる。雇用状況は全体的には採りにくくなっている。
9	3	2, 5	新しい店舗が出来ていたり、経済活動は活発であると感じるが、購買態度に結び付いているかは疑問。
10	3	2	物流的に大幅な増減がない
11	5	4	派遣社員の受入れ先が少ない。
12	3	2	受注がそれほど増加していない。
13	2	3	客単価の向上
14	3	1, 2	
15	2	2	
16	5	2	
17	2	2	
18	3	4	
19	4	3	
20	3	2	
21	1		
22	3	1	人出が増え、購買意欲の上昇を感じられるが、商品の価格に対し単に安い高いと見るより、費用対効果を吟味する傾向が上昇しているように見受けられる。
23	2	5	平地林や宅地化の動きを見て
24	2	2	完全にコロナ禍は脱して、良いものは残し、生産性が高くなっている。
25	4	4	派遣会社の営業が活発な為。労働力に余剰が出ていると見られる。

26	3	3	エネルギーや食料品など多くの生活必需品の価格がさらに上昇したことから、実質賃金は低下し、足元の暮らしを直撃している。
27	3	1	販売店、飲食店などの人出があまり変化がない。
28	4	2	青果卸先の減少、購入量の減少。
29	3	2	
30	4	2	運輸業をとりまく状況が 2024 年問題によって変化。荷物の出方が全体的に落ちている傾向がみうけられる。
31	3	2	物価高等、消費者には厳しいが、顧客の状況は変化の動かない。
32	3	3	人出が多くなりつつあるが、物価上昇影響変わらずだが、賃金上昇により、復調気味にある。
33	5	5	同業他社や異業種の店舗展開の様子を見て(閉店が目立つ)
34	4	2	円安や地球温暖化による異常気象で作物の不作で物価が上がり、財布のひもが固くなっている。
35	4	2	取引先の売り上げ減少を多々目にする。製造業は特に受注が減少している。
36	2	1	各方面、様々なイベントが開催されるようになった。

記述回答 質問 4、5

No	質問 4	質問 5
1	4	物価高による値上げ
2	3	国として、定額減税制度もあるが、それほど効果は出ないと思われる。
3	3	先行予約の状況
4	3	
5	3	
6	3	日本全体として、停滞していると感じるので、一市町村で取り戻すのは難しいと感じるから。
7	4	物価高に賃金上昇が追い付いていない(=節約志向強まる)
8	2	人の動きや賃金の上昇により消費が現状より上向く。ただし、大きな災害や現在以上の円安及び地政学的リスクは注意が必要。
9	3	どちらにふれる決定打がない。
10	3	事前情報がない。
11	4	円安の為。
12	3	仕入れ先、販売先が小山市内にない為、変化なしで回答します。
13	3	物価高の為
14	3	
15	3	
16	4	コスト高の件
17	3	
18	3	
19	4	
20	5	物価高騰
21	3	
22	2	下半期は年末商戦があるため、良くなると思われる。
23	2	3と同じ理由から
24	3	先行が不透明、株高あるが、円安進行など。
25	3	円安が続くと予想し、物価高により実質賃金の上昇が抑えられると考えます。
26	3	賃金が物価上昇に追い付いていないから。
27	3	良くなる要素と悪くなる要素が見当たらない。
28	4	飲食店の不振
29	3	
30	2	上半期より下半期の売上が伸びる傾向がある。(通年で同様)
31	3	動きなし。
32	3	物価上昇影響が当面の間続く。

33	5	3 の回答と同じ。
34	3	円高になる様子がみあたらない。地球温暖化が進む。
35	3	単価の引き上げに時間を要している傾向がみられることから、大きな変化はないものと予想している。
36	3	感染症がまたいつ大流行するか予測できない。

記述回答 質問 6、7

No	質問 6	質問 7	質問 7 その他の回答
1	2	3	
2	2	7	
3	3	1	
4	3	2	
5	4	7	
6	3	2	
7	2	1	
8	2	1, 2, 3, 4	
9	3	5	
10	3	7	
11	5	3	
12	3	7	
13	2	1, 3	
14	3	7	
15	2	5	
16	1	7	
17	3	2	
18	2	6	
19	2	5	
20	3	1	
21	3	7	
22	3	7	
23	3	7	
24	2	3, 4	
25	4	7	
26	3	7	
27	2	7	
28	3	2	
29	3	2	
30	4	7	
31	3	7	
32	4	7	
33	3	1	
34	3	2	

35	3	5	
36	2	1	

記述回答 8、9

No	質問 8	質問 8 その他の回答	質問 9
1	2		
2	3		新型コロナウイルスの影響がやや緩和されたこと。
3	1		来客数と先行予約の状況から横ばい状況となっている。
4			
5	5		
6	3		海外を相手にしている客先が多いので、しばらくは動きはなさそう。
7	1		人流回復によるもの(外出増)
8	1		単価も前期同様に人流の動きは活発になりつつある。
9	5		
10	1		事前情報がない。
11	1		
12	1		
13	5		売上増加
14	2		
15	3		様々な相談は増加傾向にあります。
16			
17	1		
18	2		
19	2		
20	2		
21	3		
22	1		受注数に大きな変化はないため。
23	6	あまり地元への商売を行っていない。	正直なところは、小山市での商売がありません。つまり、わからない。
24			
25	1		受注量が減少傾向にある。
26	1		
27	2		販売価格を維持しながら、コストを削減できた。
28	1		量が 10%位減っている。

29	3		
30	1		3 と同じ
31	1		特に動きなし。
32	1		・受注量増加傾向にあったが、生産量が減少していたため。 ・2024 年問題による。輸送費コスト増のため。
33	4		
34	3		
35	3		業況が改善している様子があまり感じられない。設備投資の動きも低迷している。
36	1		受注数があきらかに増えたため。

記述回答 質問 10、11

No	質問 10	質問 11
1	4	増加する見込み(要因)がない為
2	3	上記事由
3	3	コロナ後の宴会利用が一段落してきている。
4	3	
5	4	戸建住宅着工の減少
6	3	繁忙期と閑散期が決まっているので、特に動きに変化はない。
7	4	5と同様
8	4	1～6 月の上半期に比べ、例年下半期は8割強の為、前年同期よりは上昇する。
9	3	新規顧客と解除顧客の数が拮抗している。
10	3	事前情報がない。
11	3	景気回復が見込めない為。
12	2	受注の見通しから予測
13	3	物価高
14	2	
15	3	
16	4	売上の減少
17	3	
18	3	先の見通しが予測できない。
19	3	
20	4	円安等、送料が高い
21	3	
22	3	日々の生活では節約傾向に感じられる為
23	3	わからないので。
24	3	経済環境的に不透明、選挙などもある。国、県、市
25	4	問 9 に同じ
26	3	
27	3	原材料価格が安定している。
28	3	
29	3	
30	2	5 と同じ
31	3	変化の動きなし。
32	2	受注量増が生産量増加のため。
33	5	
34	3	政治も経済も先行き不透明の為。

35	3	取引先から売り上げ回復の動きがあまり見受けられないとの声が多いため。
36	2	コロナ禍からの脱却。

記述回答 質問 12～15

No	質問 12	質問 13	質問 14	質問 15	質問 15 その他の回答
1	1	2	2	1	
2	3	1	3	3	
3	2	3	2	7	コストの見直しと販売価格値上げ
4	3	3	3	3	
5	2	3	3	1, 4	
6	4	2	3	1, 4, 6	
7	2	2	3	1, 3, 4	
8	2	3	1	7	在庫金額の圧縮
9	2	3	3	6	
10	3	3	3	1, 3, 4	
11	3	1	1	4	
12	2	2	2	3, 4	
13	3	2	3	1, 3	
14	1	3	1, 3	1, 2	
15	2	3	3	7	
16	1	1	4	4	
17	3	2	2	1	
18	3	2	3	1, 4	
19	2	3	2	1	
20	3	3	3	3	
21	3	3	1	1	
22	2	3	3	1, 4	
23	3	1	1	4	
24	2	2	3	7	あまり実績に変化なし
25	2	4	4	1, 3	
26	3	2	3	3	
27	3	2	2	1	
28	3	3	3	1	
29	3	3	3	1	
30	3	3	5	5, 6	
31	3	3	3	1	
32	2	2	4	2, 3, 4	
33	3	2	3	1, 3, 4	

34	3	3	2	1	
35	2	1	3	1, 2, 3, 4	
36	2	1	3	3, 4	

記述回答 質問 16、17

No	質問 16	質問 16 その他の回答	質問 17
1	1		
2	4		昨年度より増額したため
3	3, 4		コロナ後の売り上げ回復による収支改善したため。
4	2, 3		
5	1, 2, 3, 4		人員確保のため
6	8, 9		業績が上がっているわけではないため。
7	1, 3, 4		ベースアップ等はあるが、世の中の水準まではできていない(微増)
8	2, 3, 4, 10	年間休日を増やした。	・年間休日を増やし、採用面では効果が出ている。 ・上期の中、雇用維持等の側面から定期昇給・ボーナスの増額を実施。
9	6		
10	1, 3, 4		親会社の業績が好調のため
11	3		
12	1		
13	1		雇用者の不足の為。
14	1, 2		
15	1		物価上昇、雇用確保への対応
16	1		従業員の動向を見て
17	5		
18	1, 2		物価高により、社員の生活費が多くなる為。
19	3		
20	1		
21	2, 4		
22	1, 2		雇用状況に合わせたため。
23	10	校正労働者の賃金構造基本統計調査をもとに、(データは一年前)と比べて、製造者 10-99 人のレベルを上回	常に市場の賃金と自主の人件費と売価を設定した。

		るように賃金構造を設定する。	
24	1, 2, 3		
25	8		売上の減少が続くため、定期昇給、ボーナスの支給を停止した。
26	1, 2, 3		従業員のモチベーション維持、向上、企業の持続的に発展に繋がると考え実施。
27	1, 3		ベースアップを昨年から行っており、ボーナスの定額支給も行った。
28	1		前年比 2.5%up
29	10	特に変化なし	
30	2		希望としては①を実施したいが、会社の状況が悪すぎる為、できない。
31	2, 3		夏季ボーナスに比し、冬季を増額したい。
32	1, 2, 3		・政府要請賃上げ3%実施(建設業入札優遇策) ・従業員モチベーション向上図るため。
33	1, 2, 3, 4, 5		人手不足でもありますが、利益に対して貢献している。
34	1, 2		円安・物価高の為、実質賃金が下がっている。
35	1, 2, 3		ベースアップを実施、特に若年層への賃金引き上げを厚くしている。
36	1, 2, 5		国からの助成金がアップしたため。

記述回答 質問 18、19

No	質問 18	質問 18 その他の回答	質問 19	質問 19 その他の回答
1	5, 6		7	
2	7		6	
3	7		7	
4	6		7	
5	7		7	
6	7		1	
7	2		7	
8	1, 2, 3, 5		7	
9	6		7	
10	7		7	
11	7		7	
12	2		7	
13	7		7	
14	2		7	
15	7		7	
16	3		2	
17	2		7	
18	6		6	
19	7		7	
20	7		7	
21	7		7	
22	2		7	
23	5		7	
24	2			
25	2		7	
26	6		7	
27	6		7	
28	7		7	
29	7		7	
30	7		1, 4	
31	7		7	
32	2		7	
33	7		7	
34	7		6	

35	7		7	
36	7		7	

記述回答 質問 20

No	質問 20
1	
2	
3	
4	
5	
6	運輸業に対する国の認識、実態把握が甘すぎる。
7	
8	配送コストや時間に制限が多くなる為、仕事の集中化(配送場所の集中化)やムダな在庫の圧縮等に取り組んでいる。
9	
10	資機材の高騰を想定した予算組み。
11	
12	輸送コストの増加。
13	物価の上昇に伴う原材料の高騰他
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	・配送リードタイムが長くなりつつあるため。 ・在庫量のコントロールに更なる制度が必要になってきている。
23	検討中
24	
25	配送コストの上昇を価格転嫁することを検討。
26	
27	工場内での待機時間をコントロールしている。
28	
29	
30	ドライバーの減少を抑える為、お客様との運賃の値上げ交渉は積極的に行っている。弊社は軽貨物運送業なので、直接 2024 年問題に抵触するわけではないが、ドライバーの拘束時間の管理等は行っていかなければいけないと思っている。
31	特になし。

32	・配送コスト増による、業者へ値下げ交渉を積極的に実施。 ・複数業者への合い見積もり取得。 ・配送コスト削減を課題としている。
33	
34	
35	他企業との共同運送の取り組みに着手している。
36	

記述回答 質問 21～23

No	質問 21	質問 22	質問 23
1	2	10	
2	2	1	
3	2	4	
4	2	5	
5	3	5	
6	5	2	
7	3	5	もう少し円高が望ましい
8	3	6	・ドル以外の通貨にも安い為、原材料や加工品の価格が上昇。 ・ガソリン等も下がらない為、悪影響多い。
9	2	4	
10	4	10	
11	3	5	
12	5	10	外貨為替取引が無い為、直接的な影響は無し。
13	5	5	特になし
14	4	10	
15	3	10	円安が解消していく要因は少ないものと思う。
16			
17	4	10	
18	4	10	
19	2	10	
20	2		
21			
22	2	5	
23	2	5	円安は先行指標です。輸入原料が上がリ、その後プラスチック材料が上がってきます。一度上がると、なかなか下がってこないのが現状です。
24	2	5	
25	2	5	当社の主業は農機製造業です。円安により農家さんが使用する肥料が高騰し、なかなか農機購入まで資金がまわらないといった状況が発生しています。
26	5	10	
27	2	3	
28	2	4	
29	3	7	急激な変化は望まない。

30	2	5	欲を言えば、125。現実を見て、135 ぐらいとなると良いと思う。
31	2	4	
32	4	10	
33	5	10	
34	2	4	
35	2	6	円安が進んでおり、原材料の仕入高の影響が出ている企業が増えている。
36	5	10	

iii. 小山市景気動向アンケート調査(時系列データ)

質問 1 小山市の景気の現状(水準)

			良い	やや良い	どちらとも いえない	やや悪い	悪い	無回答	DI
今回	2024 年	1～6 月	2.8	25.0	38.9	25.0	8.3	0.0	47.2
前回	2024 年	7～12 月	0.0	21.2	54.5	21.2	3.0	0.0	48.5
前々回	2023 年	1～6 月	0.0	40.0	45.7	5.7	8.6	0.0	54.3
第 41 回	2022 年	7～12 月	3.0	24.2	42.4	24.2	6.1	0.0	48.5
第 40 回	2022 年	1～6 月	5.3	10.5	52.6	18.4	13.2	0.0	44.1
第 39 回	2021 年	7～12 月	0.0	12.8	41.0	28.2	17.9	0.0	37.2
第 38 回	2021 年	1～6 月	0.0	8.7	19.6	60.9	10.9	0.0	31.5
第 37 回	2020 年	7～12 月	0.0	9.1	13.6	43.2	34.1	0.0	24.4
第 36 回	2020 年	1～6 月	0.0	0.0	6.5	28.3	65.2	0.0	10.3
第 35 回	2019 年	7～12 月	0.0	11.8	35.3	45.1	5.9	2.0	38.5
第 34 回	2019 年	1～6 月	2.2	10.9	47.8	37.0	0.0	2.2	44.5
第 33 回	2018 年	7～12 月	2.2	24.4	55.6	13.3	4.4	0.0	51.6
第 32 回	2018 年	1～6 月	0.0	31.6	55.3	10.5	0.0	2.6	55.4
第 31 回	2017 年	7～12 月	0.0	32.6	58.1	4.7	4.7	0.0	54.7
第 30 回	2017 年	1～6 月	0.0	17.0	59.6	19.1	4.3	0.0	47.3
第 29 回	2016 年	7～12 月	0.0	14.6	47.9	31.3	6.3	0.0	42.7
第 28 回	2016 年	1～6 月	0.0	9.3	64.8	20.4	5.6	0.0	44.5
第 27 回	2015 年	7～12 月	0.0	21.7	56.5	21.7	0.0	0.0	50.0
第 26 回	2015 年	1～6 月	0.0	22.4	49.0	20.4	8.2	0.0	46.4
第 25 回	2014 年	7～12 月	0.0	10.9	50.0	32.6	6.5	0.0	42.7
第 24 回	2014 年	1～6 月	2.0	16.0	54.0	16.0	8.0	4.0	46.9
第 23 回	2013 年	7～12 月	2.0	28.6	49.0	16.3	4.1	0.0	52.0
第 22 回	2013 年	1～6 月	0.0	18.5	48.1	31.5	1.9	0.0	45.8
第 21 回	2012 年	7～12 月	0.0	4.1	44.9	34.7	16.3	0.0	34.2
第 20 回	2012 年	1～6 月	0.0	14.6	29.2	43.7	12.5	0.0	36.7
第 19 回	2011 年	7～12 月	1.8	9.2	25.5	45.5	18.0	0.0	32.8
第 18 回	2011 年	1～6 月	0.0	1.9	15.4	50.0	30.8	1.9	22.0
第 17 回	2010 年	7～12 月	0.0	6.7	33.3	40.0	20.0	0.0	31.7
第 16 回	2010 年	1～6 月	0.0	10.4	27.1	39.6	22.9	0.0	31.3
第 15 回	2009 年	7～12 月	0.0	2.1	4.2	41.7	52.0	0.0	14.1
第 14 回	2009 年	1～6 月	0.0	1.8	1.8	38.6	57.8	0.0	11.9

第13回	2008年	7～12月	0.0	0.0	4.3	36.2	59.5	0.0	11.2
第12回	2008年	1～6月	0.0	2.2	13.3	66.7	17.8	0.0	25.0
第11回	2007年	7～12月	0.0	0.0	38.3	53.2	8.5	0.0	32.5
第10回	2007年	1～6月	0.0	23.1	45.2	27.9	3.8	0.0	46.9
第9回	2006年	7～12月	0.0	20.8	35.4	33.3	10.5	0.0	41.6
第8回	2006年	1～6月	0.0	25.5	53.2	14.9	6.4	0.0	49.5
第7回	2005年	7～12月	0.0	28.9	44.4	22.2	4.5	0.0	49.4
第6回	2005年	1～6月	0.0	14.6	29.3	51.0	5.1	0.0	38.4
第5回	2004年	7～12月	0.0	12.5	27.5	42.5	17.5	0.0	33.8
第4回	2004年	1～6月	0.0	16.7	38.1	33.3	11.9	0.0	39.9
第3回	2003年	7～12月	0.0	12.0	18.0	40.0	30.0	0.0	28.0
第2回	2003年	1～6月	1.6	0.0	16.4	44.3	37.7	0.0	20.9
初回	2002年	7～12月	0.0	1.2	7.4	37.0	54.4	0.0	13.9

質問 4 小山市の景気の先行き(来半期見通し)

見通し対象時期		良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	無回答	DI
今回	2024 年 7～12 月	0.0	11.1	66.7	16.7	5.6	0.0	45.8
前回	2024 年 1～6 月	0.0	27.3	57.6	15.2	0.0	0.0	53.0
前々回	2023 年 7～12 月	2.9	42.9	37.1	11.4	5.7	0.0	56.4
第 41 回	2023 年 1～6 月	0.0	21.2	48.5	27.3	3.0	0.0	47.0
第 40 回	2022 年 7～12 月	2.6	15.8	55.3	21.1	5.3	0.0	47.4
第 39 回	2022 年 1～6 月	5.1	53.8	28.2	7.7	2.6	2.6	63.2
第 38 回	2021 年 7～12 月	2.2	43.5	39.1	13.0	2.2	0.0	57.6
第 37 回	2021 年 1～6 月	0.0	13.6	38.6	34.1	13.6	0.0	38.1
第 36 回	2020 年 7～12 月	6.5	23.9	28.3	17.4	19.6	4.3	44.9
第 35 回	2020 年 1～6 月	0.0	15.7	56.9	25.5	0.0	2.0	47.6
第 34 回	2019 年 7～12 月	2.2	10.9	54.3	28.3	2.2	2.2	45.6
第 33 回	2019 年 1～6 月	0.0	31.1	57.8	11.1	0.0	0.0	55.0
第 32 回	2018 年 7～12 月	2.6	15.8	68.4	13.2	0.0	0.0	52.0
第 31 回	2018 年 1～6 月	0.0	39.5	53.5	7.0	0.0	0.0	58.1
第 30 回	2017 年 7～12 月	0.0	19.1	63.8	14.9	2.1	0.0	50.0
第 29 回	2017 年 1～6 月	0.0	24.5	61.2	12.2	2.0	0.0	52.0
第 28 回	2016 年 7～12 月	1.9	11.1	53.7	29.6	3.7	0.0	44.5
第 27 回	2016 年 1～6 月	0.0	21.7	60.9	17.4	0.0	0.0	51.1
第 26 回	2015 年 7～12 月	0.0	30.6	55.1	12.3	2.0	0.0	53.6
第 25 回	2015 年 1～6 月	0.0	26.1	45.7	21.7	4.3	2.2	48.9
第 24 回	2014 年 7～12 月	0.0	24.0	46.0	26.0	4.0	0.0	47.5
第 23 回	2014 年 1～6 月	4.1	28.6	42.9	22.4	2.0	0.0	52.6
第 22 回	2013 年 7～12 月	1.9	37.0	50.0	7.4	3.7	0.0	56.5
第 21 回	2013 年 1～6 月	2.0	36.7	42.9	14.3	4.1	0.0	54.6
第 20 回	2012 年 7～12 月	0.0	20.8	43.8	27.1	8.3	0.0	44.3
第 19 回	2012 年 1～6 月	0.0	16.4	47.3	27.3	7.3	1.7	43.6
第 18 回	2011 年 7～12 月	3.8	21.2	38.5	23.1	13.4	0.0	44.7
第 17 回	2011 年 1～6 月	0.0	6.7	64.4	24.4	4.5	0.0	43.3
第 16 回	2010 年 7～12 月	2.1	29.2	52.1	6.3	8.3	2.0	52.7
第 15 回	2010 年 1～6 月	0.0	8.3	37.5	33.3	20.9	0.0	33.3
第 14 回	2009 年 7～12 月	1.8	17.5	36.8	27.2	14.9	1.8	40.9
第 13 回	2009 年 1～6 月	0.0	0.0	10.6	12.8	74.5	2.1	8.7
第 12 回	2008 年 7～12 月	0.0	2.2	13.3	68.9	15.6	0.0	25.5
第 11 回	2008 年 1～6 月	0.0	8.5	42.6	42.6	4.3	2.0	39.1

第10回	2007年 7～12月	1.9	19.2	58.7	20.2	0.0	0.0	50.7
第9回	2007年 1～6月	2.1	25.0	58.3	10.4	4.2	0.0	52.6
第8回	2006年 7～12月	0.0	31.9	51.1	17.0	0.0	0.0	53.7
第7回	2006年 1～6月	2.2	51.1	40.0	6.7	0.0	0.0	62.2
第6回	2005年 7～12月	0.0	17.1	48.8	26.8	7.3	0.0	43.9
第5回	2005年 1～6月	0.0	9.8	41.5	43.9	4.8	0.0	39.1
第4回	2004年 7～12月	0.0	33.3	50.0	11.1	5.6	0.0	52.8
第3回	2004年 1～6月	0.0	18.0	32.0	34.0	16.0	0.0	38.0
第2回	2003年 7～12月	1.6	3.3	47.5	32.8	14.8	0.0	36.0
初回	2003年 1～6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 6 業界の小山市における売上（売上金額の増減）

			増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	2024 年	1～6 月	2.8	30.6	52.8	11.1	2.8	0.0	54.9
前回	2023 年	7～12 月	12.1	27.3	42.4	15.2	3.0	0.0	57.6
前々回	2023 年	1～6 月	5.7	40.0	25.7	22.9	5.7	0.0	54.3
第 41 回	2022 年	7～12 月	0.0	30.3	39.4	24.2	6.1	0.0	48.5
第 40 回	2022 年	1～6 月	7.9	15.8	39.5	28.9	5.3	2.6	48.0
第 39 回	2021 年	7～12 月	0.0	23.1	43.6	20.5	10.3	2.6	45.4
第 38 回	2021 年	1～6 月	0.0	23.9	37.0	30.4	8.7	0.0	44.0
第 37 回	2020 年	7～12 月	0.0	20.5	31.8	22.7	22.7	2.3	37.8
第 36 回	2020 年	1～6 月	2.2	8.7	10.9	32.6	45.7	0.0	22.3
第 35 回	2019 年	7～12 月	0.0	13.7	35.3	43.1	3.9	3.9	40.3
第 34 回	2019 年	1～6 月	4.3	15.2	39.1	30.4	8.7	2.2	43.8
第 33 回	2018 年	7～12 月	4.4	22.2	48.9	20.0	2.2	2.2	51.6
第 32 回	2018 年	1～6 月	0.0	23.7	50.0	23.7	2.6	0.0	48.7
第 31 回	2017 年	7～12 月	2.3	25.6	51.2	16.3	4.7	0.0	51.2
第 30 回	2017 年	1～6 月	2.1	14.9	55.3	25.5	2.1	0.0	47.3
第 29 回	2016 年	7～12 月	0.0	10.2	59.2	28.6	2.0	0.0	45.4
第 28 回	2016 年	1～6 月	0.0	20.4	44.4	24.1	11.1	0.0	44.5
第 27 回	2015 年	7～12 月	0.0	23.9	50.0	21.7	4.3	0.0	49.4
第 26 回	2015 年	1～6 月	2.0	16.3	47.0	26.5	6.1	2.0	45.4
第 25 回	2014 年	7～12 月	2.2	10.9	47.8	32.6	6.5	0.0	43.3
第 24 回	2014 年	1～6 月	2.0	22.0	30.0	30.0	14.0	2.0	41.8
第 23 回	2013 年	7～12 月	8.2	30.6	36.7	16.3	8.2	0.0	53.6
第 22 回	2013 年	1～6 月	1.9	18.5	37.0	37.0	3.7	1.9	44.4
第 21 回	2012 年	7～12 月	0.0	10.2	36.7	30.6	20.4	2.1	34.3
第 20 回	2012 年	1～6 月	2.1	20.8	33.3	29.2	14.6	0.0	42.4
第 19 回	2011 年	7～12 月	7.3	27.3	18.2	29.1	16.3	1.8	45.0
第 18 回	2011 年	1～6 月	0.0	3.8	17.3	46.2	30.8	1.9	23.5
第 17 回	2010 年	7～12 月	4.4	20.0	42.2	24.4	9.0	0.0	46.6
第 16 回	2010 年	1～6 月	2.1	20.8	33.3	27.1	14.6	2.1	42.0
第 15 回	2009 年	7～12 月	2.1	4.2	29.2	39.6	24.9	0.0	29.8
第 14 回	2009 年	1～6 月	1.8	3.5	10.5	49.1	33.3	1.8	22.4
第 13 回	2008 年	7～12 月	0.0	0.0	14.9	42.6	38.2	4.3	18.9
第 12 回	2008 年	1～6 月	0.0	6.7	26.7	46.7	19.9	0.0	30.1
第 11 回	2007 年	7～12 月	0.0	6.4	40.4	40.4	12.8	0.0	35.1
第 10 回	2007 年	1～6 月	1.9	17.3	36.5	36.5	3.9	3.9	43.9

第9回	2006年	7～12月	4.2	18.8	41.7	25.0	8.2	2.1	46.4
第8回	2006年	1～6月	0.0	34.0	46.8	14.9	4.3	0.0	52.6
第7回	2005年	7～12月	2.2	40.0	28.9	20.0	6.7	2.2	52.8
第6回	2005年	1～6月	0.0	19.5	31.7	41.5	7.3	0.0	41.5
第5回	2004年	7～12月	2.5	15.0	35.0	30.0	17.5	0.0	38.8
第4回	2004年	1～6月	2.8	19.4	30.6	38.9	8.3	0.0	42.4
第3回	2003年	7～12月	4.0	14.0	28.0	38.0	14.0	2.0	38.8
第2回	2003年	1～6月	3.4	11.9	30.5	39.0	15.3	0.0	37.3
初回	2002年	7～12月	2.5	8.6	21.0	28.4	37.0	2.5	27.2

質問 10 業界の小山市の売上高見通し(来半期の見通し)

見通し対象時期			増加した	やや増加	変わらない	やや減少	減少した	無回答	DI
今回	2024 年	7～12 月	0.0	13.9	63.9	19.4	2.8	0.0	47.2
前回	2024 年	1～6 月	3.0	24.2	60.6	12.1	0.0	0.0	54.5
前々回	2023 年	7～12 月	0.0	42.9	42.9	8.6	5.7	0.0	55.7
第 41 回	2023 年	1～6 月	0.0	27.3	48.5	21.2	3.0	0.0	50.0
第 40 回	2022 年	7～12 月	2.6	21.1	50.0	15.8	7.9	2.6	48.6
第 39 回	2022 年	1～6 月	2.6	43.6	35.9	15.4	2.6	0.0	57.1
第 38 回	2021 年	7～12 月	0.0	34.8	43.5	15.2	4.3	2.2	52.8
第 37 回	2021 年	1～6 月	0.0	15.9	36.4	29.5	15.9	2.3	38.4
第 36 回	2020 年	7～12 月	2.2	17.4	28.3	17.4	30.4	4.3	35.2
第 35 回	2020 年	1～6 月	0.0	13.7	61.8	18.6	0.0	5.9	48.7
第 34 回	2019 年	7～12 月	2.2	21.7	38.0	29.3	4.3	4.3	46.8
第 33 回	2019 年	1～6 月	2.2	24.4	57.8	15.6	0.0	0.0	53.3
第 32 回	2018 年	7～12 月	5.3	15.8	63.2	15.8	0.0	0.0	52.7
第 31 回	2018 年	1～6 月	0.0	30.2	53.5	14.0	2.3	0.0	52.9
第 30 回	2017 年	7～12 月	0.0	10.6	66.0	19.1	4.3	0.0	45.7
第 29 回	2017 年	1～6 月	0.0	18.4	61.2	18.4	2.0	0.0	49.0
第 28 回	2016 年	7～12 月	5.6	22.2	44.4	22.2	5.6	0.0	50.0
第 27 回	2016 年	1～6 月	0.0	17.4	50.0	28.3	2.2	0.0	45.1
第 26 回	2015 年	7～12 月	0.0	18.4	55.1	24.5	2.0	0.0	47.5
第 25 回	2015 年	1～6 月	0.0	23.9	43.5	23.9	6.5	2.2	47.4
第 24 回	2014 年	7～12 月	2.0	18.0	44.0	28.0	6.0	2.0	45.4
第 23 回	2014 年	1～6 月	2.0	26.5	44.9	16.3	10.2	0.0	48.4
第 22 回	2013 年	7～12 月	1.9	33.3	48.1	9.3	5.5	1.9	54.3
第 21 回	2013 年	1～6 月	2.0	32.7	34.7	18.4	10.2	2.0	49.5
第 20 回	2012 年	7～12 月	0.0	16.7	39.6	27.1	14.5	2.1	39.9
第 19 回	2012 年	1～6 月	0.0	18.2	50.9	23.6	7.3	0.0	45.0
第 18 回	2011 年	7～12 月	3.8	13.5	40.4	28.8	11.6	1.9	42.1
第 17 回	2011 年	1～6 月	4.4	15.6	57.8	17.8	4.4	0.0	49.5
第 16 回	2010 年	7～12 月	0.0	27.1	47.9	10.4	10.4	4.2	48.9
第 15 回	2010 年	1～6 月	0.0	10.4	39.6	31.3	18.7	0.0	35.4
第 14 回	2009 年	7～12 月	1.8	17.5	31.6	35.1	12.2	1.8	40.2
第 13 回	2009 年	1～6 月	0.0	2.1	14.9	19.1	59.6	4.3	14.4
第 12 回	2008 年	7～12 月	0.0	4.4	24.4	53.3	17.9	0.0	28.8
第 11 回	2008 年	1～6 月	0.0	10.6	44.7	38.3	6.4	0.0	39.9

第10回	2007年	7～12月	1.9	23.1	57.7	13.5	0.0	3.8	53.5
第9回	2007年	1～6月	2.1	29.2	39.6	16.7	6.2	6.2	51.2
第8回	2006年	7～12月	2.1	21.3	59.6	10.6	4.3	2.1	51.6
第7回	2006年	1～6月	0.0	35.6	42.2	13.3	4.5	4.4	53.5
第6回	2005年	7～12月	0.0	22.0	51.2	26.8	0.0	0.0	48.8
第5回	2005年	1～6月	2.5	17.5	27.5	40.0	10.0	2.5	40.4
第4回	2004年	7～12月	0.0	19.4	58.3	13.9	2.8	5.6	50.0
第3回	2004年	1～6月	2.0	18.0	34.0	30.0	12.0	4.0	41.7
第2回	2003年	7～12月	0.0	10.0	43.3	31.7	15.0	0.0	37.1
初回	2003年	1～6月	0.0	8.6	30.9	30.9	27.2	2.4	30.4

質問 12 来半期の販売価格見通し

見通し対象時期			上昇する	やや上昇する	変わらない	やや低下する	低下する	無回答	DI
今回	2024 年	7～12 月	8.3	38.9	50.0	2.8	0.0	0.0	63.2
前回	2024 年	1～6 月	3.0	36.4	54.5	6.1	0.0	0.0	59.1
前々回	2023 年	7～12 月	2.9	45.7	45.7	5.7	0.0	0.0	61.4
第 41 回	2023 年	1～6 月	6.1	30.3	51.5	12.1	0.0	0.0	57.6
第 40 回	2022 年	7～12 月	10.5	31.6	39.5	13.2	2.6	2.6	58.8
第 39 回	2022 年	1～6 月	2.6	38.5	48.7	7.7	0.0	2.6	59.2
第 38 回	2021 年	7～12 月	4.3	15.2	58.7	15.2	4.3	2.2	50.0
第 37 回	2021 年	1～6 月	2.3	6.8	59.1	22.7	6.8	2.3	43.6
第 36 回	2020 年	7～12 月	0.0	6.5	56.5	19.6	17.4	0.0	38.0
第 35 回	2020 年	1～6 月	0.0	19.6	55.9	18.6	0.0	5.9	50.3
第 34 回	2019 年	7～12 月	2.2	17.4	52.2	23.9	0.0	4.3	49.5
第 33 回	2019 年	1～6 月	0.0	13.3	71.1	13.3	13.3	0.0	48.9
第 32 回	2018 年	7～12 月	0.0	10.5	73.7	13.2	0.0	2.6	49.3
第 31 回	2018 年	1～6 月	0.0	18.6	69.8	11.6	0.0	0.0	51.8
第 30 回	2017 年	7～12 月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第 29 回	2017 年	1～6 月	0.0	21.3	61.7	10.6	2.1	4.3	51.7
第 28 回	2016 年	7～12 月	0.0	9.3	64.8	18.5	3.7	3.7	45.7
第 27 回	2016 年	1～6 月	2.2	13.0	63.0	19.6	2.2	0.0	48.4
第 26 回	2015 年	7～12 月	0.0	18.4	65.3	14.3	0.0	2.0	51.0
第 25 回	2015 年	1～6 月	0.0	22.9	58.3	12.5	4.2	2.1	50.5
第 24 回	2014 年	7～12 月	2.0	20.0	62.0	12.0	2.0	2.0	52.0
第 23 回	2014 年	1～6 月	4.1	22.4	47.0	20.4	4.1	2.0	50.5
第 22 回	2013 年	7～12 月	0.0	25.9	51.9	14.8	1.8	5.6	52.0
第 21 回	2013 年	1～6 月	2.0	16.3	51.0	22.5	4.1	4.1	46.3
第 20 回	2012 年	7～12 月	0.0	10.4	47.9	35.4	6.3	0.0	40.6
第 19 回	2012 年	1～6 月	0.0	9.1	50.9	30.9	5.5	3.6	41.5
第 18 回	2011 年	7～12 月	0.0	7.7	46.2	36.5	5.8	3.8	39.5
第 17 回	2011 年	1～6 月	0.0	11.1	51.1	35.6	2.2	0.0	42.8
第 16 回	2010 年	7～12 月	0.0	12.5	54.2	31.3	2.0	0.0	44.3
第 15 回	2010 年	1～6 月	0.0	4.2	39.6	41.7	14.5	0.0	33.4
第 14 回	2009 年	7～12 月	1.8	10.5	43.9	29.8	10.5	3.5	40.5
第 13 回	2009 年	1～6 月	0.0	4.3	23.4	40.4	29.8	2.1	25.6
第 12 回	2008 年	7～12 月	4.4	17.8	25.6	43.3	6.7	2.2	41.4
第 11 回	2008 年	1～6 月	2.1	16.0	43.6	29.8	4.2	4.3	45.3

第10回	2007年	7～12月	1.9	17.3	50.0	26.9	2.0	1.9	47.5
第9回	2007年	1～6月	2.1	18.8	54.2	16.7	4.1	4.1	49.6
第8回	2006年	7～12月	0.0	25.5	46.8	21.3	2.1	4.3	50.0
第7回	2006年	1～6月	0.0	26.7	46.7	20.0	4.4	2.2	49.5
第6回	2005年	7～12月	0.0	14.6	48.8	29.3	0.0	7.3	46.0
第5回	2005年	1～6月	0.0	8.1	45.9	40.5	5.5	0.0	39.2
第4回	2004年	7～12月	0.0	8.3	61.1	22.2	5.6	2.8	43.5
第3回	2004年	1～6月	0.0	12.0	38.0	40.0	6.0	4.0	38.8
第2回	2003年	7～12月	0.0	8.6	32.8	48.3	10.3	0.0	34.9

（注）販売価格見通しは第2回から実施

質問 13 来半期の雇用見通し

見通し対象時期			不足する	やや不足	横ばい	やや過剰	過剰	無回答	DI
今回	2024 年	7～12 月	16.7	33.3	47.2	2.8	0.0	0.0	66.0
前回	2024 年	1～6 月	6.1	42.4	39.4	12.1	0.0	0.0	60.6
前々回	2023 年	7～12 月	11.4	40.0	45.7	2.9	0.0	0.0	65.0
第 41 回	2023 年	1～6 月	12.1	27.3	57.6	0.0	0.0	3.0	63.3
第 40 回	2022 年	7～12 月	7.9	18.4	65.8	2.6	0.0	5.3	58.3
第 39 回	2022 年	1～6 月	7.7	15.4	76.9	0.0	0.0	0.0	57.7
第 38 回	2021 年	7～12 月	2.2	15.2	67.4	8.7	2.2	4.3	51.7
第 37 回	2021 年	1～6 月	2.3	13.6	63.6	11.4	4.5	4.5	49.4
第 36 回	2020 年	7～12 月	0.0	6.5	65.2	19.6	8.7	0.0	42.4
第 35 回	2020 年	1～6 月	9.8	21.6	56.9	5.9	0.0	5.9	59.4
第 34 回	2019 年	7～12 月	4.3	23.9	63.0	4.3	0.0	4.3	57.3
第 33 回	2019 年	1～6 月	13.3	35.6	46.7	0.0	2.2	2.2	64.8
第 32 回	2018 年	7～12 月	2.6	21.1	65.8	7.9	0.0	2.6	54.7
第 31 回	2018 年	1～6 月	7.0	30.2	60.5	2.3	0.0	0.0	60.5
第 30 回	2017 年	7～12 月	14.9	23.4	57.4	4.3	0.0	0.0	62.2
第 29 回	2017 年	1～6 月	10.6	34.0	53.2	2.1	0.0	0.0	65.7
第 28 回	2016 年	7～12 月	3.7	18.5	70.4	1.9	1.9	3.7	55.3
第 27 回	2016 年	1～6 月	0.0	26.2	64.3	7.1	2.4	0.0	53.6
第 26 回	2015 年	7～12 月	6.1	22.5	65.3	4.1	0.0	2.0	57.8
第 25 回	2015 年	1～6 月	8.3	33.3	54.2	2.1	2.1	0.0	62.3
第 24 回	2014 年	7～12 月	0.0	28.6	67.4	2.0	2.0	0.0	55.7
第 23 回	2014 年	1～6 月	2.0	26.5	59.2	8.2	0.0	4.1	55.8
第 22 回	2013 年	7～12 月	0.0	11.1	77.8	7.4	0.0	3.7	51.0
第 21 回	2013 年	1～6 月	0.0	14.3	67.3	14.3	2.1	2.0	48.9
第 20 回	2012 年	7～12 月	0.0	6.3	62.5	20.8	6.3	4.1	43.0
第 19 回	2012 年	1～6 月	1.8	18.2	63.6	9.1	1.8	5.5	52.4
第 18 回	2011 年	7～12 月	0.0	9.6	61.5	23.1	2.0	3.8	45.5
第 17 回	2011 年	1～6 月	0.0	6.7	64.4	26.7	2.2	0.0	43.9
第 16 回	2010 年	7～12 月	2.1	8.3	66.7	12.5	6.2	4.2	46.8
第 15 回	2010 年	1～6 月	2.1	2.1	54.2	35.4	4.1	2.1	40.5
第 14 回	2009 年	7～12 月	0.0	7.0	56.1	24.6	3.5	8.8	43.3
第 13 回	2009 年	1～6 月	4.3	2.1	34.0	36.2	14.9	8.5	34.9
第 12 回	2008 年	7～12 月	0.0	11.1	80.0	8.9	0.0	0.0	50.6
第 11 回	2008 年	1～6 月	2.1	17.0	70.2	6.4	0.0	4.3	53.9

第10回	2007年	7～12月	3.8	26.9	63.5	1.9	0.0	3.9	58.4
第9回	2007年	1～6月	8.3	22.9	52.1	8.3	0.0	8.4	58.5
第8回	2006年	7～12月	2.1	21.3	53.2	14.9	2.1	6.4	51.7
第7回	2006年	1～6月	0.0	13.3	73.3	6.7	2.3	4.4	50.5
第6回	2005年	7～12月	0.0	22.0	61.0	9.8	0.0	7.2	53.3
第5回	2005年	1～6月	5.0	5.0	65.0	20.0	2.5	2.5	47.4
第4回	2004年	7～12月	0.0	16.7	72.2	8.3	2.8	0.0	50.7
第3回	2004年	1～6月	0.0	8.0	56.0	30.0	4.0	2.0	42.3
第2回	2003年	7～12月	0.0	8.8	57.9	28.1	5.2	0.0	42.6

（注）雇用見通しは第2回から実施

質問 14 資金繰りの状況(前半期との比較)

			改善した	やや改善	どちらとも いえない	やや悪化	悪化した	無回答	DI
今回	2024 年	1～6 月	11.1	19.4	55.6	8.3	2.8	2.8	57.1
前回	2023 年	7～12 月	0.0	21.2	54.5	21.2	3.0	0.0	48.5
前々回	2023 年	1～6 月	0.0	20.0	54.3	22.9	2.9	0.0	47.9
第 41 回	2022 年	7～12 月	0.0	21.2	51.5	24.2	3.0	0.0	47.7
第 40 回	2022 年	1～6 月	5.3	10.5	50.0	23.7	10.5	0.0	44.1
第 39 回	2021 年	7～12 月	2.6	30.8	46.2	15.4	5.1	0.0	52.6
第 38 回	2021 年	1～6 月	2.2	19.6	56.5	15.2	6.5	0.0	48.9
第 37 回	2020 年	7～12 月	0.0	18.2	52.3	18.2	9.1	2.3	45.3
第 36 回	2020 年	1～6 月	8.7	8.7	26.1	39.1	13.0	4.3	39.8
第 35 回	2019 年	7～12 月	2.0	3.9	74.5	11.8	3.9	3.9	47.0
第 34 回	2019 年	1～6 月	6.5	8.7	69.6	13.0	0.0	2.2	52.2
第 33 回	2018 年	7～12 月	2.2	24.4	62.2	11.1	0.0	0.0	54.4
第 32 回	2018 年	1～6 月	2.6	15.8	68.4	10.5	0.0	2.6	52.6
第 31 回	2017 年	7～12 月	4.7	14.0	62.8	18.6	0.0	0.0	51.3
第 30 回	2017 年	1～6 月	4.3	17.0	70.2	8.5	0.0	0.0	54.3
第 29 回	2016 年	7～12 月	2.1	17.0	68.1	12.8	0.0	0.0	53.1
第 28 回	2016 年	1～6 月	7.4	9.3	61.1	18.5	1.9	1.9	50.5
第 27 回	2015 年	7～12 月	4.3	10.9	69.6	13.0	2.0	2.2	51.7
第 26 回	2015 年	1～6 月	2.0	6.2	71.4	16.4	2.0	2.0	47.4
第 25 回	2014 年	7～12 月	2.1	10.4	64.6	20.8	0.0	2.1	48.4
第 24 回	2014 年	1～6 月	4.0	20.0	56.0	18.0	2.0	0.0	51.5
第 23 回	2013 年	7～12 月	4.1	16.3	59.2	18.4	0.0	2.0	51.6
第 22 回	2013 年	1～6 月	3.7	22.2	51.9	18.5	0.0	3.7	52.9
第 21 回	2012 年	7～12 月	6.1	16.3	53.1	14.3	8.2	2.0	49.4
第 20 回	2012 年	1～6 月	2.1	18.8	58.3	8.3	8.3	4.2	49.5
第 19 回	2011 年	7～12 月	9.1	7.3	50.0	20.9	7.2	5.5	47.4
第 18 回	2011 年	1～6 月	0.0	9.6	48.1	26.9	11.6	3.8	39.5
第 17 回	2010 年	7～12 月	0.0	17.8	55.6	15.6	8.8	2.2	46.1
第 16 回	2010 年	1～6 月	4.2	8.3	54.2	27.1	6.2	0.0	44.3
第 15 回	2009 年	7～12 月	2.1	4.2	62.5	16.7	14.5	0.0	40.7
第 14 回	2009 年	1～6 月	3.5	10.5	33.3	36.8	10.6	5.3	39.3
第 13 回	2008 年	7～12 月	2.1	6.4	44.7	34.0	12.8	0.0	37.8
第 12 回	2008 年	1～6 月	0.0	13.3	48.9	35.6	2.2	0.0	43.3
第 11 回	2007 年	7～12 月	4.3	8.5	46.8	27.7	6.3	6.4	43.8

第10回	2007年	1～6月	3.8	17.3	53.8	21.2	0.0	3.9	50.9
第9回	2006年	7～12月	6.3	16.7	54.2	12.5	6.1	4.2	51.2
第8回	2006年	1～6月	0.0	21.3	59.6	12.8	2.0	4.3	51.2

(注) 資金繰りの状況は第8回から実施